

指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書 (37)

# 平成16年度市内遺跡確認調査報告書

南摺ヶ浜遺跡・矢石遺跡・宮之前遺跡

平成17年3月

指宿市教育委員会



## 序 文

本書は、平成16年度に実施した市内遺跡の確認調査・試掘調査の成果をまとめたものです。

南摺ヶ浜遺跡の確認調査では、奈良・平安時代から縄文時代晩期の文化層が確認されました。本遺跡では、平成4年度の調査で、縄文時代晩期の南西諸島の土器である「宇宿上層式土器」が出土し、当時、何らかの交流があったことが証明されましたが、今回の調査でも特に縄文時代晩期の文化層から、多数の遺物が出土し調査地点付近に集落の存在を想起させる成果を得ることができました。

また、昭和55年に畑地灌漑事業に伴い確認調査が実施され、平安時代から古墳時代の遺構・遺物が検出された宮之前遺跡の試掘調査では、前回同様に奈良・平安時代から古墳時代の遺物の出土が見られました。

両遺跡共に、新たなデータが追加され、遺跡の価値がますます高められたものと確信すると同時に本書が皆様に活用され、将来に守り伝えられるべき遺跡の保存に役立てられることを願ってやみません。この調査に御指導、御協力を頂きました関係各位、ならびに地元の皆様に対し心から感謝申し上げます、序文にかえさせていただきます。

平成17年3月

指宿市教育委員会  
教育長 林 賢一郎

## 例 言

1. 本書は、平成16年7月1日から平成17年3月31日まで実施した南摺ヶ浜遺跡・矢石遺跡・宮之前遺跡の発掘調査報告書である。本書の編集、遺構・遺物の原図作成、製図については渡部徹也が主に行い中摩浩太郎、鎌田洋昭の協力を得た。本文執筆については、渡部徹也が担当し、中摩浩太郎、鎌田洋昭の協力を得た。遺構の写真撮影については、渡部徹也が主に行い、中摩浩太郎、鎌田洋昭の協力を得た。遺物の写真撮影については、渡部徹也が行った。

2. 調査、及び整理・報告書作成に要した経費3,000,000円のうち、50%は国、18%は県からの補助を得た。

3. 調査は、市内遺跡確認調査の一環として指宿市教育委員会が実施した。調査の組織は以下のとおりである。

発掘調査主体	指宿市教育委員会		
発掘調査責任者	指宿市教育委員会	教 育 長	林 賢一郎
発掘調査担当	指宿市教育委員会	社会教育課長	久 保 憲一郎
		社会教育係長	白 山 尚 人
		派遣社会教育主事	井 上 智 司
		社会教育係主査	嶺 元 和 仁
		社会教育係主査	福 永 清 子
		文化係長	枝 田 富 雄
		文化係主査	東中川 睦 子
		文化係主事	吹 留 義 輝
発掘調査員		文化係主査	中 摩 浩太郎
		文化係主査	渡 部 徹 也
		文化係主事	鎌 田 洋 昭

発掘調査作業員 上原 節男、竹下カツエ、吉元 澄子、濱田 文男、新小田千恵子、吉満 淳子、  
篠崎 秀夫、上玉利孝志

整 理 作 業 員 清 秀子、竹下 珠代

4. 本書のレベルは、すべて絶対高である。また、図中に用いられている座標は国土座標計第Ⅱ系に準ずる。

5. 本書の層位、遺物観察表の色調名は「標準土色帖」1990年版に基づく。

6. 遺物観察表、遺物実測図、遺構図の表記凡例は、「橋牟礼川遺跡Ⅲ」（1992、指宿市教育委員会）に準ずる。  
観察表の特殊な表記については、下記の通りである。

土器残存・法量【口：口縁部径、肩：肩部最大径、胴：胴部最大径、底：底部径】

色調【外：外面、内：内面、肉：器肉】

混和材【カ：角閃石、セ：石英、白：白色粒、黒：黒色粒、赤：赤色粒、金：金雲母】

調整【内：内面、外：外面、口唇：口唇部、突：突帯部、底：底面、脚内：脚台内面、脚端：脚台接地面】

7. 本調査で得たすべての成果については、指宿市考古博物館「時遊館COCCOはしむれ」でこれを保存し、活用している。

## 本文目次

### 南摺ヶ浜遺跡確認調査編

第1章	遺跡の位置と環境	1
第2章	調査に至る経緯	3
第3章	遺跡の層序	4
第4章	確認調査	5
	第1節 1 トレンチの調査	5
	第2節 2 トレンチの調査	8
	第3節 3 トレンチの調査	26
第5章	確認調査のまとめ	32

### 矢石遺跡試掘調査編 33

### 宮之前遺跡試掘調査編 34

## 挿図目次

第1図	遺跡の位置図	1
第2図	トレンチ配置図	2
第3図	層位模式柱状図	4
第4図	1 トレンチ完掘状況図	5
第5図	1 トレンチ層位断面図	6
第6図	2 トレンチ完掘状況図	8
第7図	2 トレンチ層位断面図	9
第8図	ピット平面図・断面図	10
第9図	2 トレンチ遺物出土状況図	11
第10図	2 トレンチ出土遺物実測図①	13
第11図	2 トレンチ出土遺物実測図②	15
第12図	2 トレンチ出土遺物実測図③	16
第13図	2 トレンチ出土遺物実測図④	17
第14図	2 トレンチ出土遺物実測図⑤	18
第15図	3 トレンチ完掘状況図	26

第16図	3 トレンチ層位断面図	27
第17図	ピット平面図・断面図	28
第18図	3 トレンチ出土遺物実測図	28
第19図	3 トレンチ遺物出土状況図	29
第20図	矢石遺跡試掘トレンチ位置図	33
第21図	宮之前遺跡試掘トレンチ位置図	34
第22図	試掘トレンチ出土遺物実測図①	36
第23図	試掘トレンチ出土遺物実測図②	37
第24図	試掘トレンチ出土遺物実測図③	38
第25図	試掘トレンチ出土遺物実測図④	39

## 表 目 次

表 1	南摺ヶ浜遺跡遺物観察表 1	19
表 2	南摺ヶ浜遺跡遺物観察表 2	20
表 3	南摺ヶ浜遺跡遺物観察表 3	21
表 4	宮之前遺跡遺物観察表 1	39
表 5	宮之前遺跡遺物観察表 2	40
表 6	宮之前遺跡遺物観察表 3	41
表 7	平成16年度試掘・工事立会等一覧 1	44
表 8	平成16年度試掘・工事立会等一覧 2	45

## 写真図版目次

写真 1	1 トレンチ全景	5
写真 2	1 トレンチ完掘状況	7
写真 3	1 トレンチ地層①	7
写真 4	1 トレンチ地層②	7
写真 5	2 トレンチ全景	8
写真 6	ピット 1 面状況	10
写真 7	ピット 2 面状況	10
写真 8	2 トレンチ完掘状況	22
写真 9	2 トレンチ地層①	22
写真10	2 トレンチ地層②	22

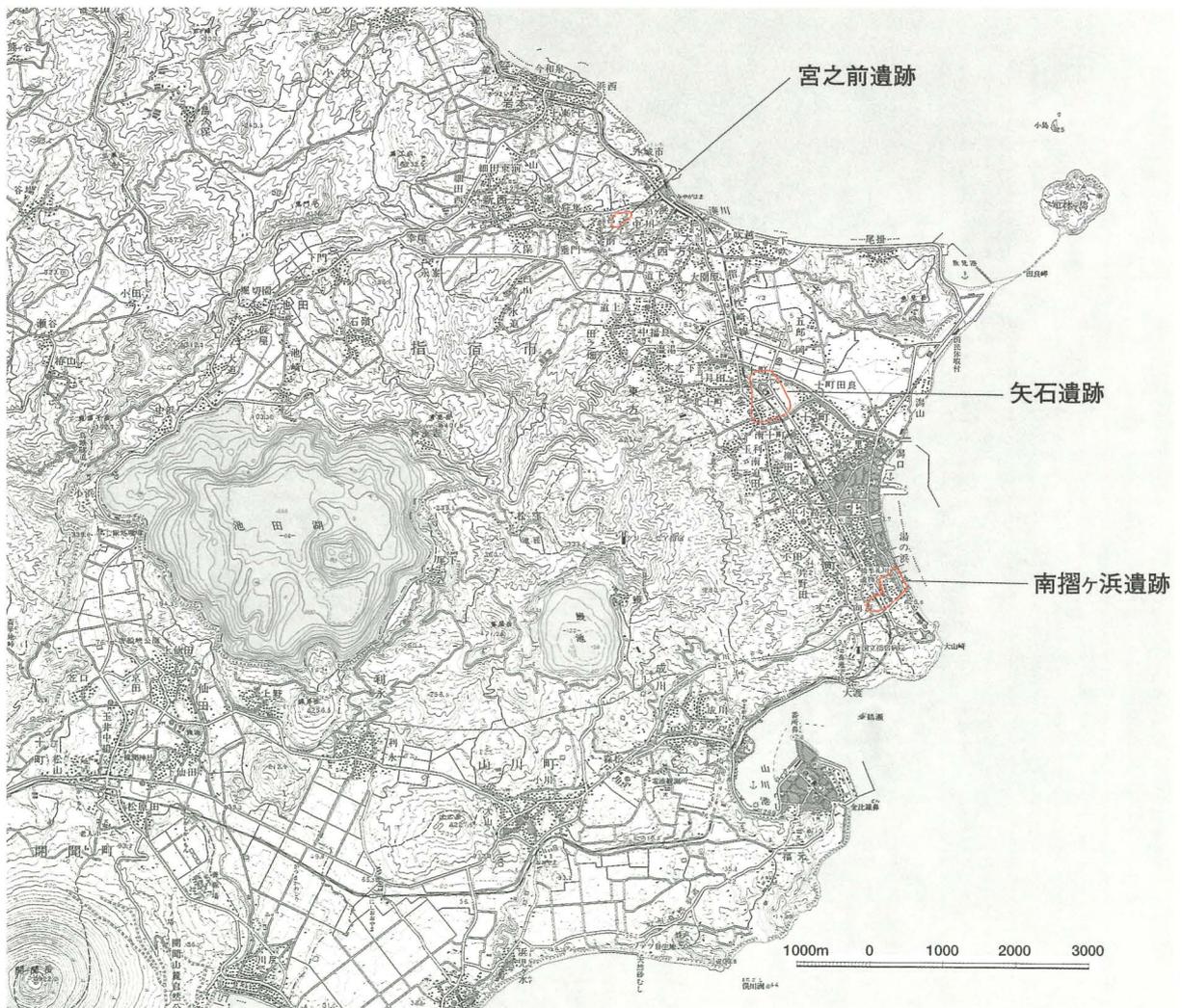
写真11	2 トレンチ遺物出土状況①	23
写真12	2 トレンチ遺物出土状況②	23
写真13	2 トレンチ遺物出土状況③	23
写真14	2 トレンチ出土遺物①	24
写真15	2 トレンチ出土遺物②	25
写真16	3 トレンチ全景	26
写真17	ピット断面状況	28
写真18	3 トレンチ完掘状況	30
写真19	3 トレンチ地層①	30
写真20	3 トレンチ地層②	30
写真21	3 トレンチ遺物出土状況	31
写真22	3 トレンチ出土遺物	31
写真23	試掘トレンチ位置	33
写真24	試掘トレンチ 1 地層	33
写真25	試掘トレンチ 2 地層	34
写真26	試掘トレンチ 3 地層	34
写真27	試掘トレンチ全景	41
写真28	試掘トレンチ地層	41
写真29	試掘トレンチ出土遺物①	42
写真30	試掘トレンチ出土遺物②	43



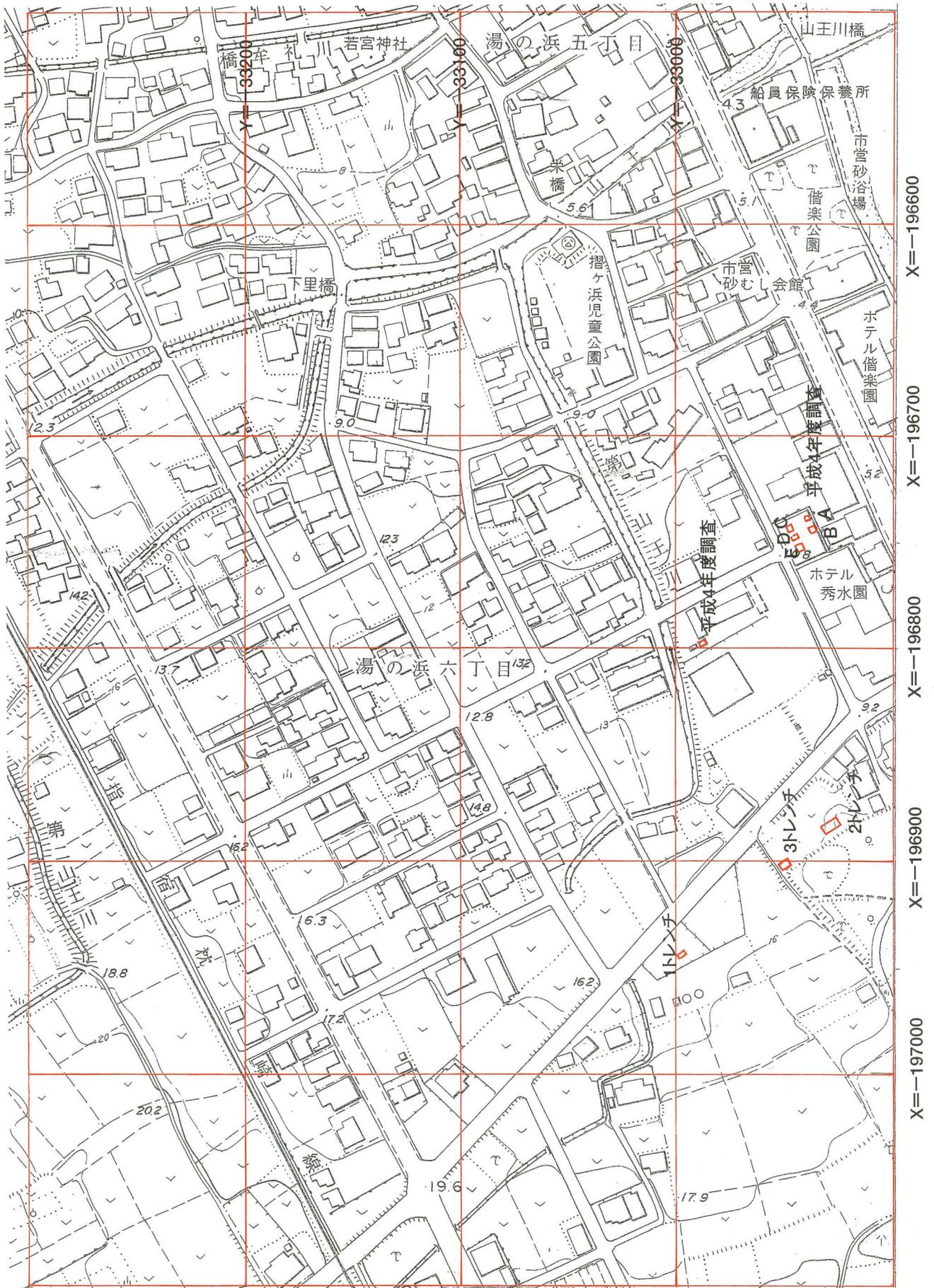
# 南摺ヶ浜遺跡確認調査編

## 第1章 遺跡の位置と環境

指宿市は、薩摩半島の南端に位置している。地形的には、山地・台地・平野・湖沼と大きく4つに分けられる。中でも九州最大のカルデラ湖である池田湖は、約5500年前に活動し、その噴出物は指宿地方の地形形成要因となっている。また、隣接する開聞町には、トニコロイデ型の火山として有名な開聞岳がある。その活動は、約4000年から始まり、有史以来、史料にも活動の記録が見える。開聞岳起源の噴出物堆積層には、黄コラ（縄文時代後期）、灰ゴラ（縄文時代晩期）、暗紫コラ（弥生時代中期）、青コラ（7世紀第4四半期）、紫コラ（西暦874年）、885年（仁和元年）の噴出物が知られ、特に黄コラ、暗紫コラ、青コラ、紫コラは、南摺ヶ浜遺跡の所在する指宿市街地にも広範囲に堆積している。さて、南摺ヶ浜遺跡は指宿市街地の海浜部に面した海岸段丘上に立地し、山裾から海岸へ傾斜する標高20m前後の火山性扇状地形の端部に位置する。南摺ヶ浜遺跡周辺には、国指定史跡指宿橋牟礼川遺跡、南丹波遺跡、大渡遺跡など指宿地方の古代史を考察する上で重要な遺跡が広がっているが、特に南摺ヶ浜遺跡で確認された古墳時代の土壙墓群と橋牟礼川遺跡で確認されている同時期の集落との関連を明らかにすることが課題の一つに挙げられている。



第1図 遺跡の位置図 (S=1/10,000)



第2図 トレンチ配置図 (S=1/2, 500)

## 第2章 調査に至る経緯

指宿市誌によれば、南摺ヶ浜遺跡の所在は古くから知られ、昭和38年には土地造成工事中に成川式土器、須恵器、石器が出土し、南日本新聞に報じられている<sup>(1)</sup>。また、昭和44年にも、隣接地から成川式土器、土師器の出土が南日本新聞に報じられ<sup>(2)</sup>、付近一帯が遺跡地として知られるようになった。近年では、平成4年にホテル増築工事に伴う確認調査で、古墳時代の土壙墓3基が確認され、土壙墓群として知られるようになった<sup>(3)</sup>。また、同年、土壙墓が検出された付近の確認調査地点からは、縄文時代晩期南西諸島との交流を裏付ける「宇宿上層式土器」が出土するなど、新たな遺跡の価値が付加されてきている<sup>(4)</sup>。

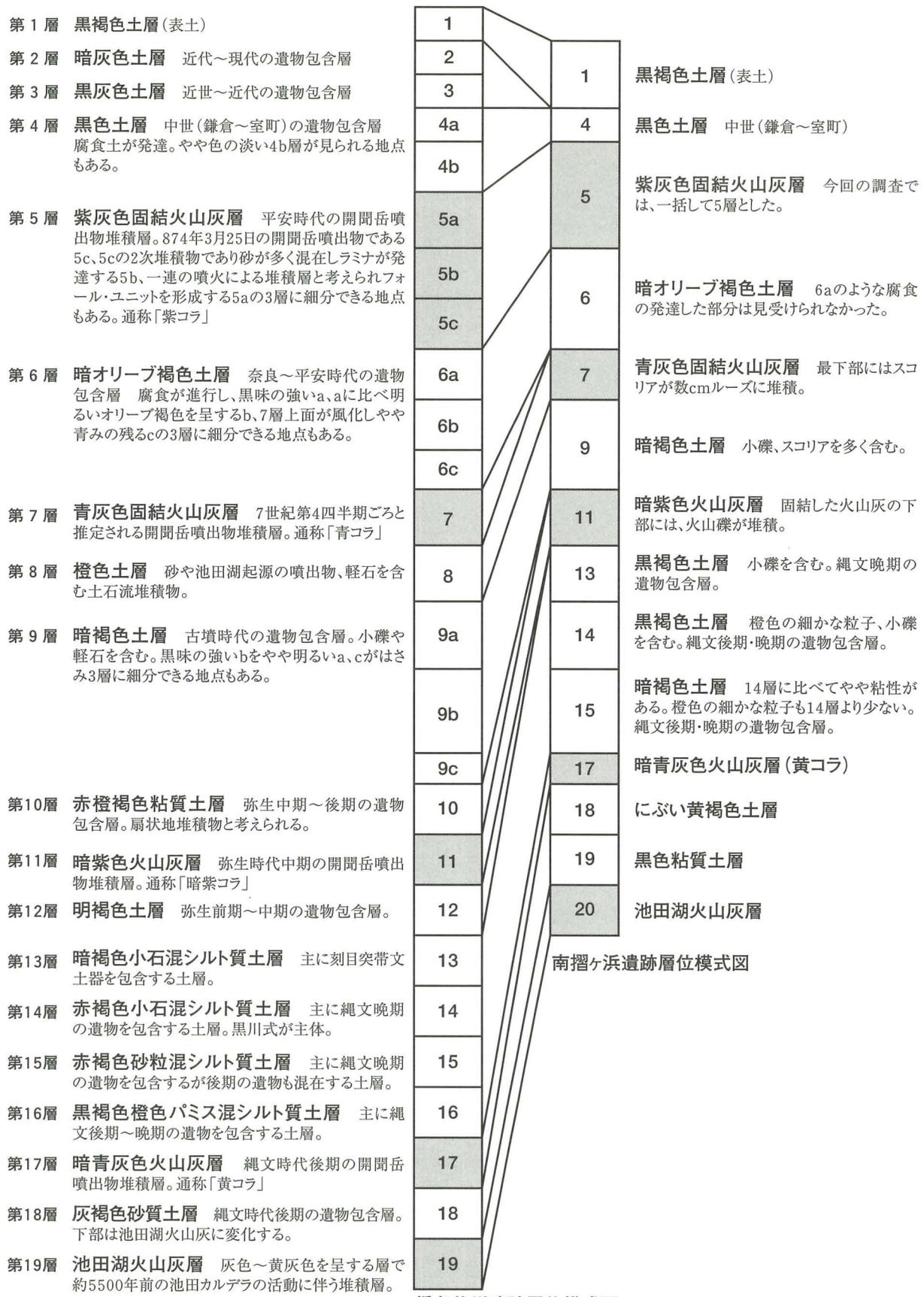
南摺ヶ浜遺跡は、これまでの調査結果から、現地表から遺物包含層までが1.5m以上あり、また、住宅地となっていることから、表面採集等で遺跡の範囲をくくりづらい状況にあり、現況の地形を考慮し遺跡の範囲を推定している。そうした中、遺跡地内と推定される範囲で、県道の一部拡幅・路線変更の工事が計画され、工事によって掘削される範囲の遺跡の状況を確認する必要があるが出てきた。そこで、工事計画範囲で、平成16年3月、1箇所ではあるが詳細分布（試掘）調査を行い、青コラ、紫コラの堆積を確認するとともに少量の成川式土器の破片を確認した。この結果を受け、平成16年度に3箇所のトレンチを設け、さらに詳細な遺跡の範囲と内容の確認を行うこととなった。

【注】(1)昭和38年9月南日本新聞による。(2)昭和44年9月18日付け南日本新聞による。(3)「南摺ヶ浜遺跡Ⅰ」指宿市教育委員会 1993 (4)「南摺ヶ浜遺跡Ⅱ」指宿市教育委員会 1993

## 第3章 遺跡の層序

南摺ヶ浜遺跡の地層は、池田カルデラ噴出物や開聞岳噴出物とそれらの間に挟まる扇状地堆積物から形成されている。基本的には、近接する橋牟礼川遺跡の層序と同様であるため、調査時点において、対比する形で層順を決定した。以下にその概要を記す。

第1層は表土である。調査地点では、50cm前後の堆積がある。第4層は、中世の時期に該当する黒色土層である。50cm前後の堆積があるが、場所によっては、削平を受けている。本地点では、遺構・遺物は確認されなかった。第5層は874年3月25日（貞観16年3月4日）に降下した通称「紫コラ」と呼ばれる開聞岳噴出物で、最下層には1～5cm程度火山礫が堆積し、その上位に固結した火山灰が堆積する。第6層は、奈良～平安時代の遺物包含層で20～30cm程度の堆積が見られる。橋牟礼川遺跡では、紫コラに被覆された畑跡が、また、第7層上面で建物跡等の遺構がよく検出されるが、本地点では見られなかった。遺物も土師器の破片が1点出土したのみである。第7層も7世紀第4四半期頃に比定される青コラと呼ばれる開聞岳噴出物で、30cm程度の堆積が見られる。下部にはスコリアがルーズに堆積する。第9層は、古墳時代の包含層である。少量の土器の破片が出土したが遺構は見られなかった。第11層は、弥生時代中期の暗紫コラである。5cm程度の堆積で、場所によっては欠落している。第13層は、黒褐色を呈する土層で、縄文時代晩期の遺物を包含する。第14層、第15層は橙色の粒子の量を目安に細分したが、基本的には同質の土層である。両層ともに縄文時代晩期の遺物を包含する。第17層は、縄文時代後期の黄コラでブロック状に堆積する。18、19層は縄文時代後期に該当する土層である。19層からは土器の破片が1点出土した。第20層は、池田湖火山灰層である。指宿市街地の基盤層となっている。



南摺ヶ浜遺跡層位模式図

橋牟礼川遺跡層位模式図

第3図 層位模式柱状図

## 第4章 確認調査

確認調査では、工事計画範囲のうち、鹿児島県の所有する土地の3箇所にトレンチを設けた。そのうち、最も西側（山手）に位置するトレンチを1トレンチ、最も東側（海手）に位置するトレンチを2トレンチとして調査を開始した。1トレンチでは、遺構・遺物は見られなかったが、2トレンチにおいて遺跡の存在を確認した。そこで、西側への広がりをつかむために、両トレンチの間に3トレンチを設定し、ここでも遺構・遺物を確認した。以下、トレンチごとに調査成果を記す。

### 第1節 1トレンチの調査

#### （1）調査成果

工事計画範囲の最も西側5×6mの1トレンチを設定した。重機による表土の除去後、第5層以下、現地表下約3mまで掘り下げを行ったが、遺構・遺物は見られなかった。

#### （2）層位

第1層、第4層、第5層、第6層、第7層、第9層、第11層、第13層の8層を確認した。いずれもほぼ水平に堆積しており、紫コラ直下には、バックされた植物遺体（葉の断片など）が多量に見られたものの、畑等の遺構は確認されなかった。また、青コラ上面においても、第6層から掘り込まれた遺構は見られなかった。第9層も安定した堆積が見られたが遺構・遺物ともに確認されなかった。

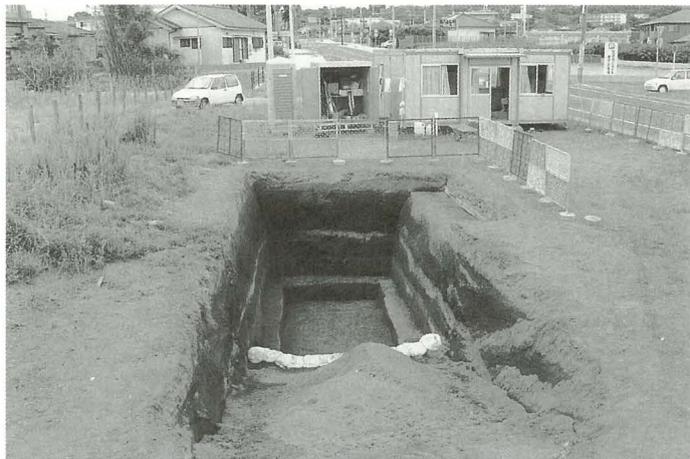
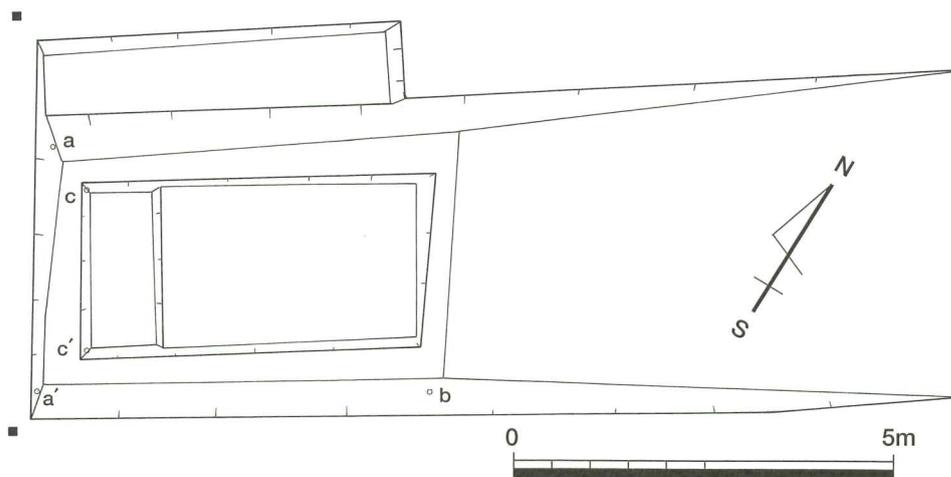
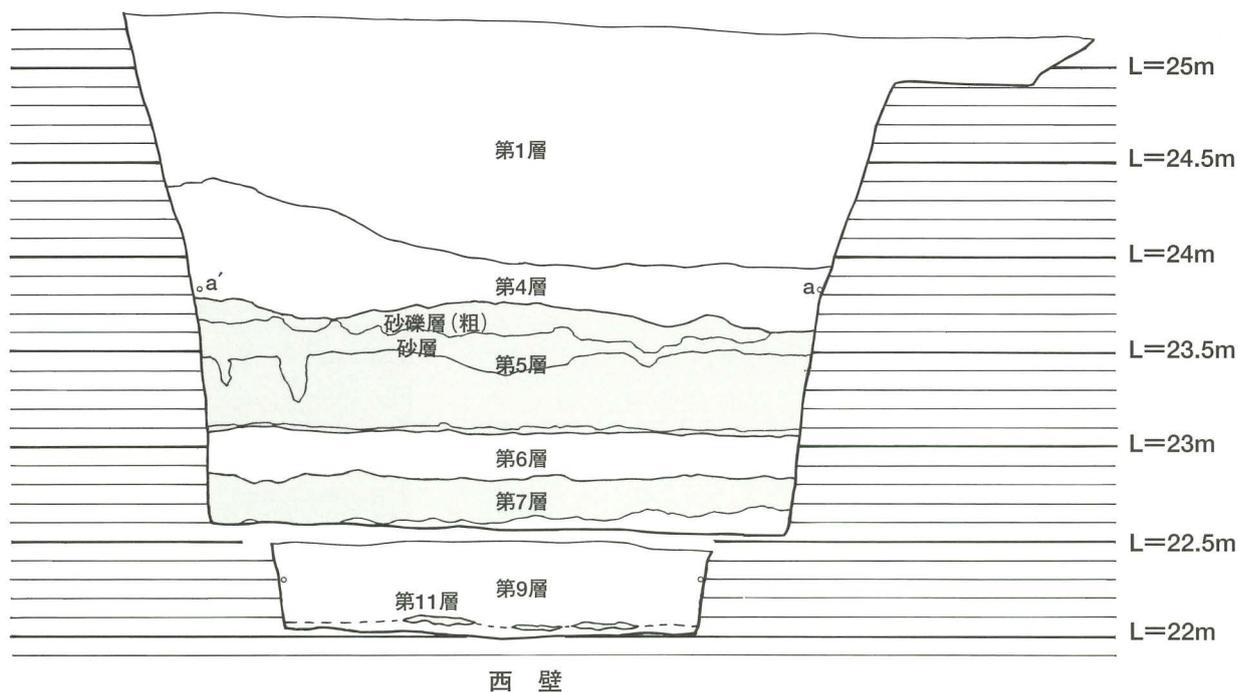
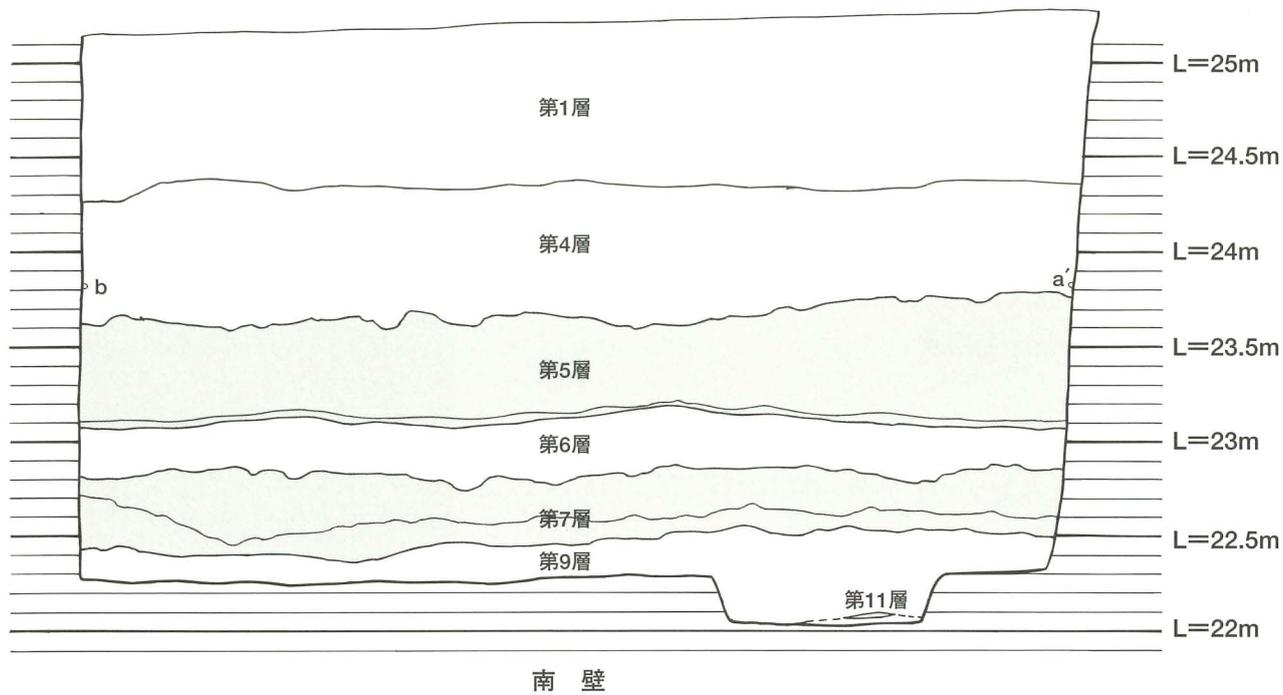


写真1 1トレンチ全景



第4図 1トレンチ完掘状況図 (S=1/100)



第5図 1 トレンチ層位断面図 (S=1/40)

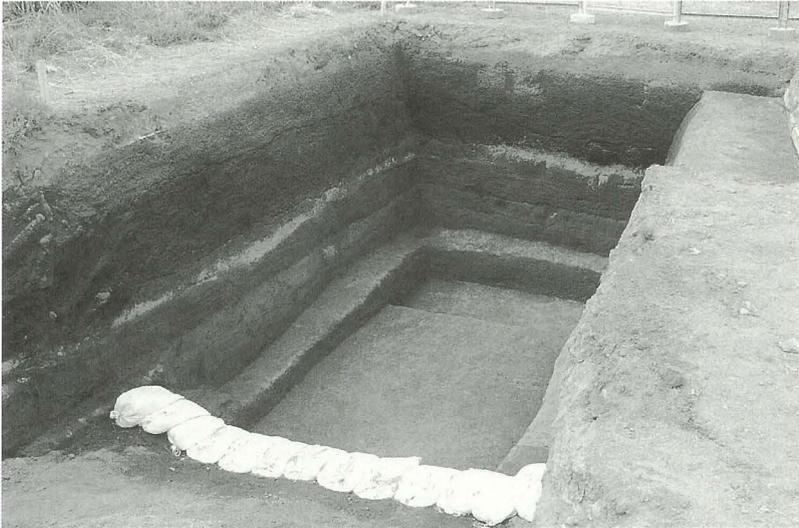


写真2 1 トレンチ完掘状況



写真3 1 トレンチ地層①



写真4 1 トレンチ地層②

## 第2節 2トレンチの調査

### (1) 調査成果

工事計画範囲の最も東側に5×8mの2トレンチを設定した。重機による表土の除去後、第5層以下、現地表面下約3.5mまで掘り下げを行った。第6層から2点の土器の破片が出土したがいずれもローリングを受けていた。紫コラ直下には、バックされた植物遺体(葉の断片など)が多量に見られたものの、畑等の遺構は確認されなかった。また、青コラ上面においても、第6層から掘り込まれた遺構は見られなかった。第9層からは、14点の土器の破片が出土したが、第6層の遺物と同じくいずれもローリングを受けていた。また、本調査地点は、平成4年度の調査で古墳時代の土壙墓が検出された地点から直線距離で約100mしか離れていなかったために、墓域の広がり確認できるのではと期待されたが、遺構は検出されなかった。

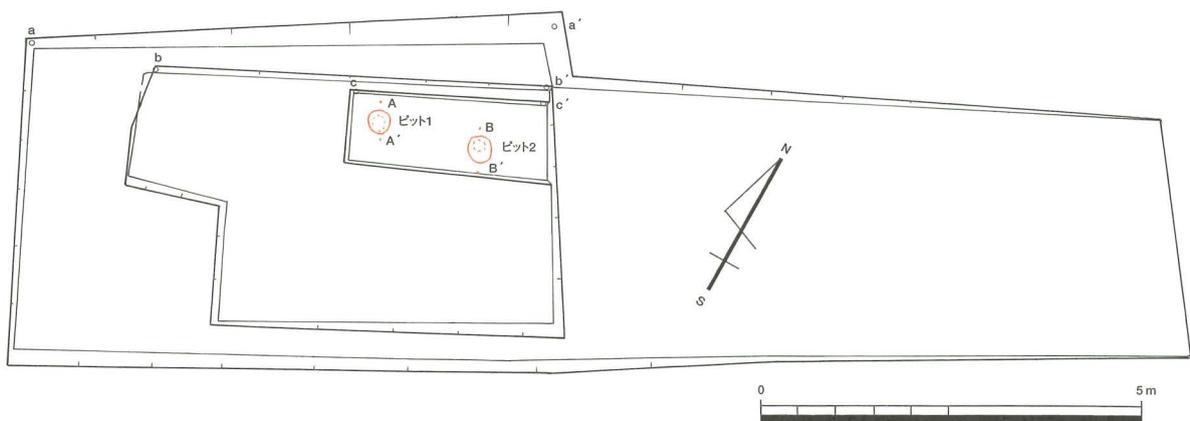
第13層～15層からは、縄文時代晩期の土器片、石器等、約500点が出土し、また15層上面で13層を埋土とするピット2基を確認した。

### (2) 層位

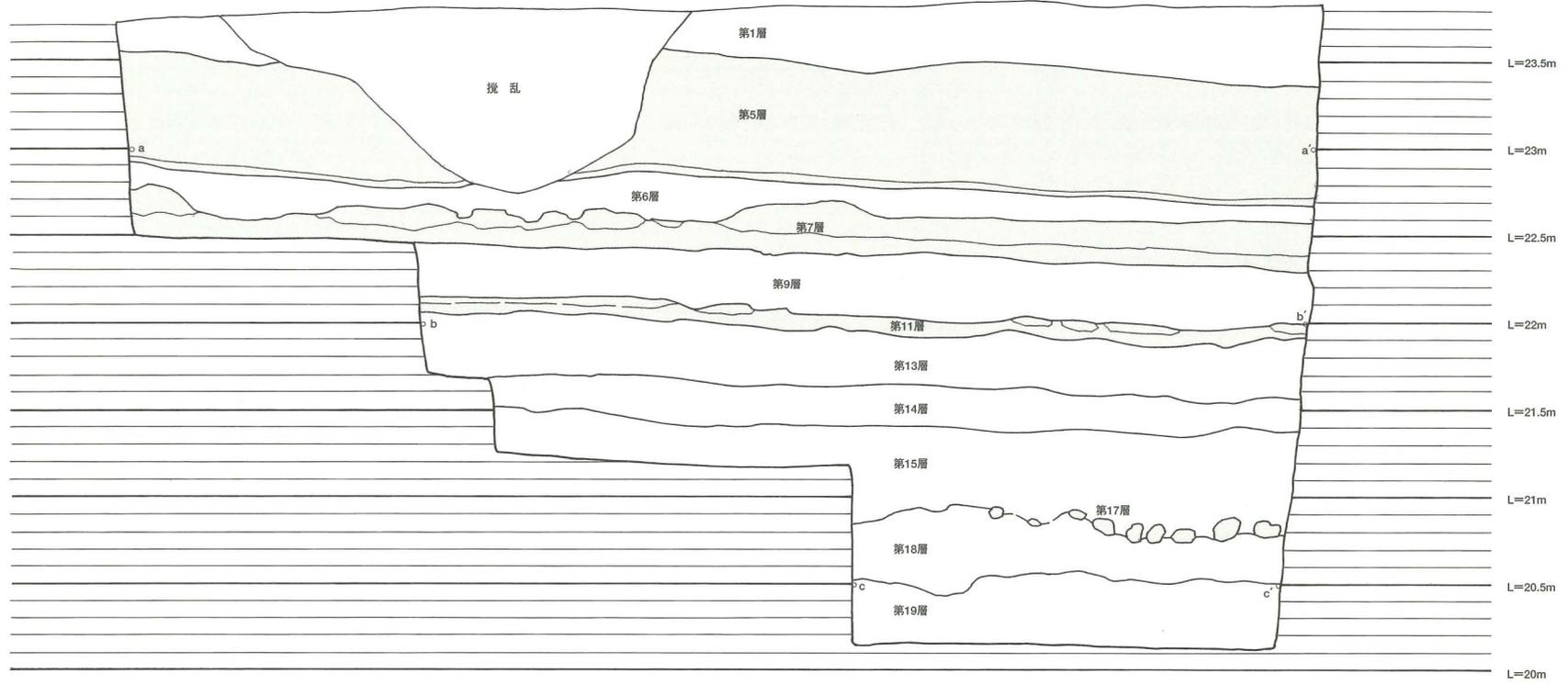
第1層、第4層～第7層、第9層、第11層、第13層～第15層、第17層～第20層の14層を確認した。いずれも山手から海岸に向けて緩傾斜しながら堆積している。15層中位まで面的に掘削した後、一部先行トレンチを設定し、第20層まで確認した。掘削深度が深くなったため、段掘りを行っているが、第7図の層位断面図は一部先行トレンチ部分の土層も含め、北壁に反映させる形で図化している。先行トレンチ内では黄コラの堆積がブロック状に見られ、その下層ににぶい黄褐色を呈する第18層を確認したが、遺物の出土は見られなかった。第19層からは1点土器片が出土した。第19層下部は次第に色調が灰色に変化し、第20層へと移行している。



写真5 2トレンチ全景



第6図 2トレンチ完掘状況図 (S=1/100)



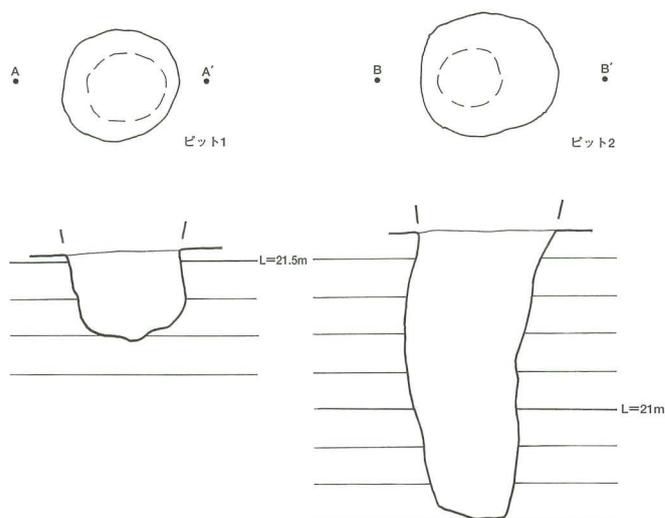
第7図 2トレンチ層位断面図 (S=1/40)

### (3) 2トレンチの遺構

第15層上面において、第13層を埋土とするピット2基を検出した。平面を検出した後、半裁して断面の状況を確認した。

ピット1は、長径約30cm、短径約29cm、検出面からの深さ約24cmを計る。ピット2は、長径約37cm、短径約34cm、検出面からの深さ約76cmを計る。

調査区が狭いこともあり、ピット同士の関連や性格については不明である。



第8図 ピット平面図・断面図 (S=1/20)



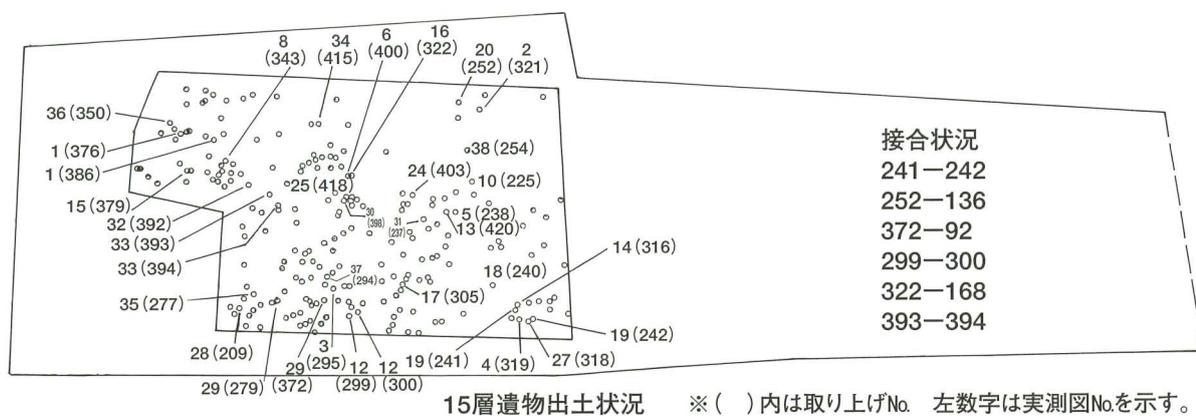
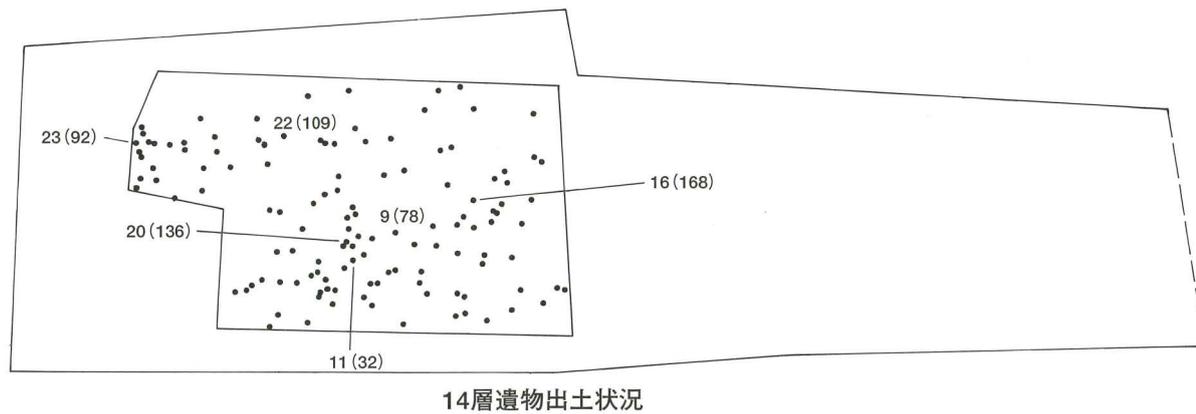
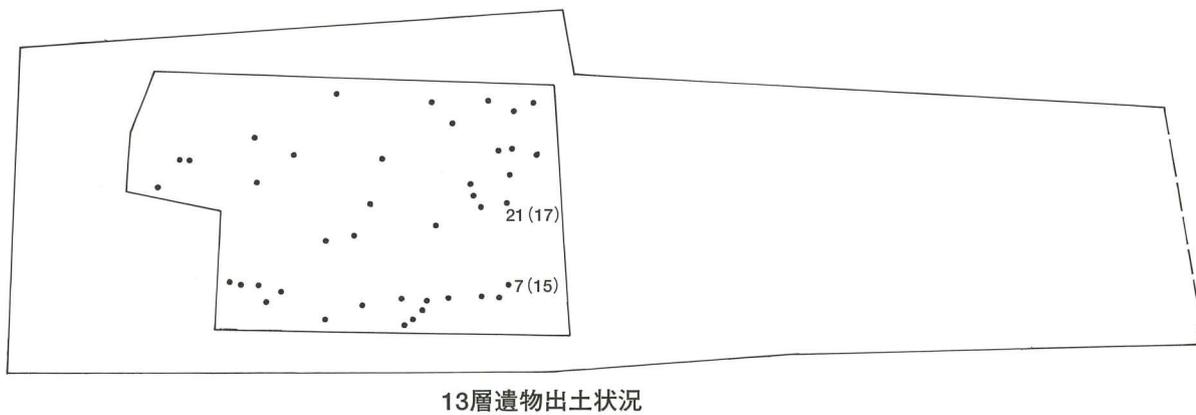
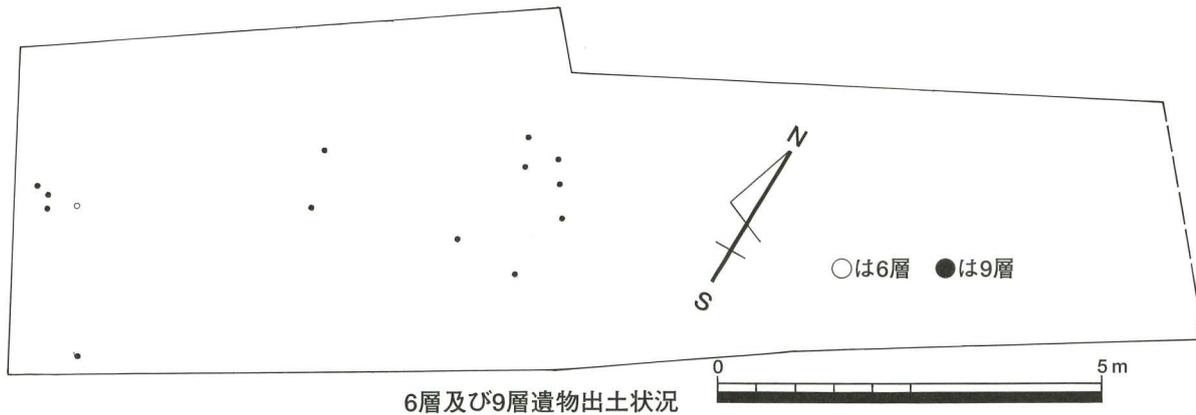
写真6 ピット1断面状況



写真7 ピット2断面状況

### (4) 2トレンチの遺物

2トレンチの遺物の出土状況は第9図のとおりである。第13層、第14層、第15層から出土した遺物のうち、34点を図化した。No.1～33は入佐式土器、No.34は黒川式土器の範疇に入るものと思われる。



第9図 2トレンチ遺物出土状況図 (S=1/100)

### 深鉢形土器 (No.1～17)

No.1は、深鉢形土器の口縁部の破片である。頸部から「く」の字に外反して外開きに直行する口縁部と続く。口縁部を肥厚させ文様帯を作り出し、外面に4条の沈線を巡らす。

No.2は、深鉢形土器の口縁部の破片である。口縁部は外反する。頸部の屈曲部分が欠損しているが、おそらくは「く」の字に外反して外開きに直行する口縁部を肥厚させ文様帯を作り出しているものと推定される。外面に5条の沈線を巡らす。

No.3は、深鉢形土器の口縁部の破片である。頸部の屈曲部分が欠損しているが、おそらくは「く」の字に外反してわずかに内湾する口縁部に至るものと推定される。外面には浅い貝殻条痕が残る。

No.4は、深鉢形土器の口縁部の破片である。頸部から「く」の字に外反してやや外開きに直行する口縁部となる。口縁部を肥厚させ文様帯を作り出し、外面に4条の沈線を巡らす。

No.5は、深鉢形土器の口縁部の破片である。頸部から「く」の字に外反して外開きにわずかに内湾する口縁部に至る。口縁部を若干肥厚させ文様帯を作り出し、外面に3条の沈線を巡らす。

No.6は、深鉢形土器の口縁部の破片である。頸部から「く」の字に外反してやや外開きに直行する口縁部と続く。口縁部を肥厚させ文様帯を作り出し、外面に4条の沈線を巡らす。

No.7は、深鉢形土器の口縁部の破片である。頸部から「く」の字に外反して外開きに直行する口縁部と続く。口縁部を若干肥厚させるものの外面は無文である。口縁部下部で屈曲し胴部はやや張るものと思われる。

No.8～No.10は、深鉢形土器の口縁部の破片である。頸部から「く」の字に外反して外開きに直行する口縁部と続く。口縁部を若干肥厚させるものの外面は無文である。

No.11は、深鉢形土器の口縁部の破片である。頸部の屈曲は弱く外開きに直行する口縁部と続く。口縁部を若干肥厚させるものの外面は無文である。

No.12、13は、深鉢形土器の口縁部の破片である。口縁部はやや外反して外開きに直行する口縁部と続く。口縁部下部には低い突帯が巡る。

No.14は、深鉢形土器の口縁部の破片である。口縁部はやや外反して外開きに直行する口縁部と続く。外面は無文である。

No.15は、深鉢形土器の口縁部の破片である。口縁部はやや外反してわずかに内湾ぎみに立ち上がる。外面は無文である。

No.16は、深鉢形土器の口縁部の破片である。口縁部はやや外反して外開きに直行する口縁部と続く。外面は無文である。

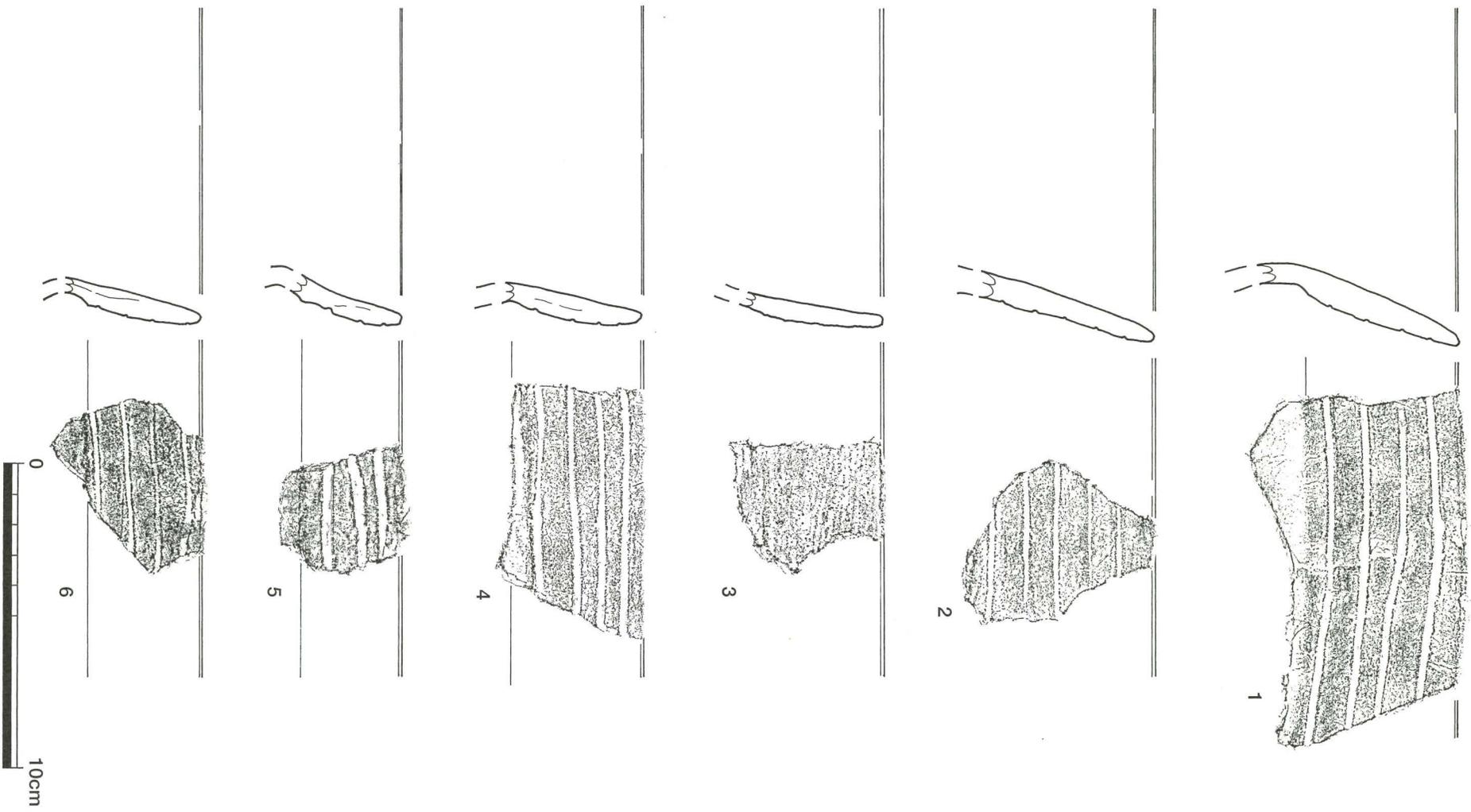
No.17は、深鉢形土器の胴部～頸部の破片である。胴部は屈曲し、内外面に明瞭な稜をもつ。頸部は外反して外開きに直行する口縁部と続くものと推定される。口縁部は肥厚するものと思われる。

No.18～22は、底部の破片である。深鉢形土器であるのか浅鉢形土器であるのか識別は困難であるが、ここで取り上げる。いずれも平底を呈し、外開きの胴部へと移行するものと思われる。

### 浅鉢形土器 (No.23～34)

No.23は、浅鉢形土器の口縁部～胴部の破片である。胴部で屈曲して立ち上がり、外反して外開きに直行する口縁部と続く。胴部内外面に明瞭な稜をもつ。口唇部は内湾しない。内外面ともに研磨が施されている。

No.24は、浅鉢形土器の口縁部～胴部の破片である。No.23と同様に胴部で屈曲して立ち上がり、外反して外開きに直行する口縁部と続く。胴部内面に明瞭な稜をもつ。口縁部端部は内湾しない。内外面ともに研磨が施されている。



第10図 2 トレンチ出土遺物実測図① (S=1/2)

No.25は、浅鉢形土器の口縁部の破片である。頸部～口縁部にかけて弧状に外反し、丸みを帯びた口唇部が低く立ち上がる。内外面ともにナデ調整が施されている。

No.26は、浅鉢形土器の口縁部の破片である。胴部で屈曲し立ち上がるものと推定される。頸部～口縁部は外開きに直行し、丸みを帯びた口唇部が低く立ち上がる。内外面ともに研磨が施されている。

No.27は、浅鉢形土器の胴部の破片である。胴部で屈曲し立ち上がるものと推定される。頸部～口縁部にかけて弧状に外反するものと思われる。内外面に明瞭な稜をもち、研磨が施されている。

No.28は、浅鉢形土器の胴部の破片である。胴部で屈曲するが、立ち上がりはほとんどなく、頸部～口縁部は外開きに直行するものと思われる。内外面に明瞭な稜をもち、研磨が施されている。

No.29は、浅鉢形土器の胴部～底部の破片である。胴部で屈曲し立ち上がるものと推定される。底部は丸底になるものと推定される。

No.30は、浅鉢形土器の口縁部～頸部の破片である。頸部で屈曲し立ち上がり口縁部へと続く。口唇部は横ナデによって窪み、内面に稜をもつ。内外面ともに研磨が施されている。

No.31は、浅鉢形土器の口縁部～頸部の破片である。頸部で屈曲し立ち上がり口縁部へと続く。口唇部は横ナデによって窪み、内面に稜をもつ。口唇部端部は丸みを帯びる。内外面ともに研磨が施されている。

No.32は、浅鉢形土器の口縁部～頸部の破片である。頸部でわずかに屈曲し口縁部へと続く。口唇部は横ナデによって窪み、内面に稜をもつ。口唇部端部は丸みを帯びる。内外面ともに研磨が施されている。

No.33は、浅鉢形土器の口縁部～胴部の破片である。口縁部下部でわずかに屈曲し口唇部へと続く。口唇部は横ナデによって窪み、内面に稜をもつ。口唇部端部は丸みを帯びる。内外面ともに研磨が施されている。

No.34は、浅鉢形土器の口縁部～頸部の破片である。口縁部は内湾し、口縁部下部でわずかに屈曲、口唇部が立ち上がる。口唇部は横ナデによって窪み、内面に稜をもつ。内外面ともにナデ調整が施されている。

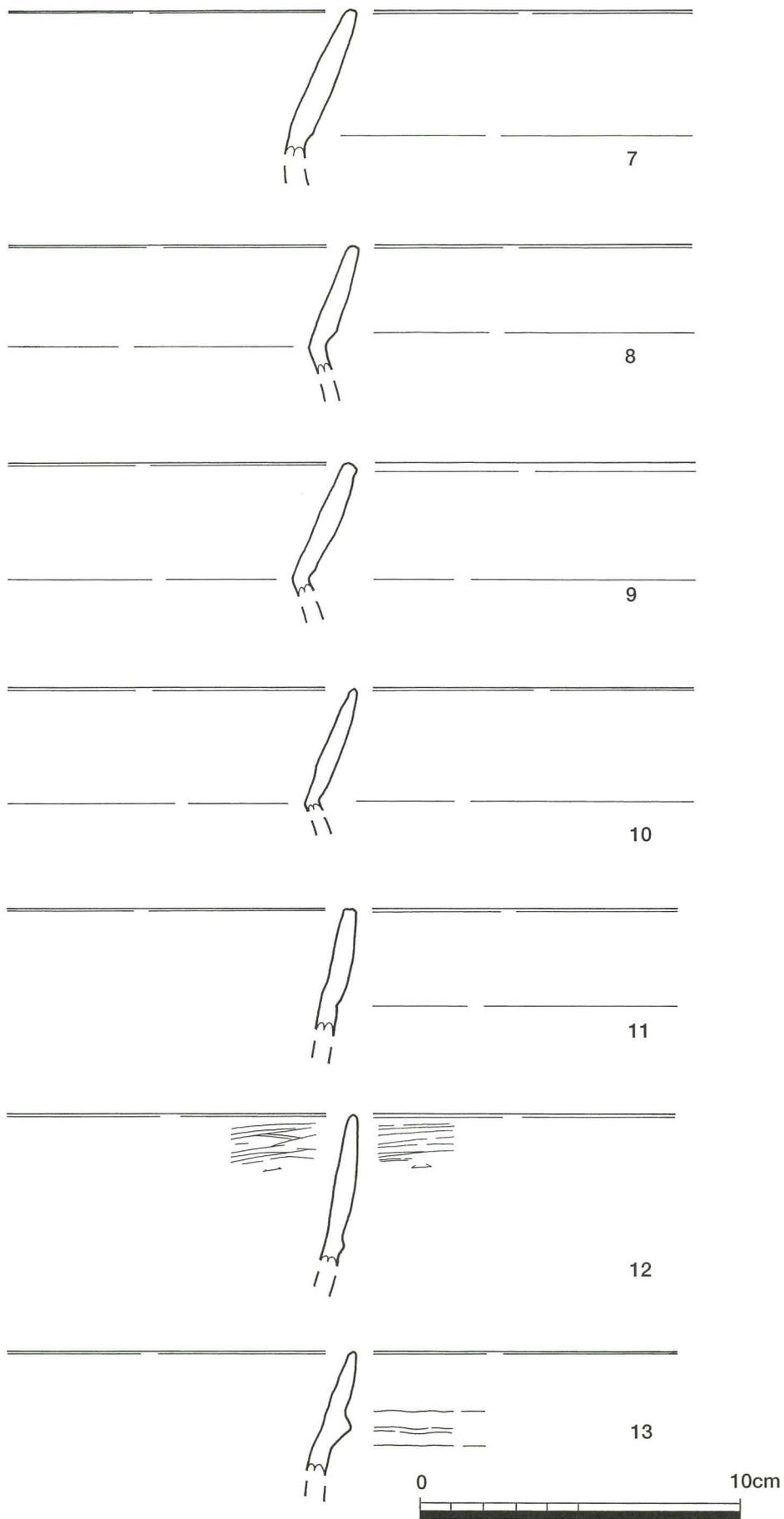
## 石器

No.35は、安山岩製の石錘である。扁平で楕円形を呈する素材に対して、長軸の上下両端にa面・b面の両面側からの加撃によって、抉入が施されている。

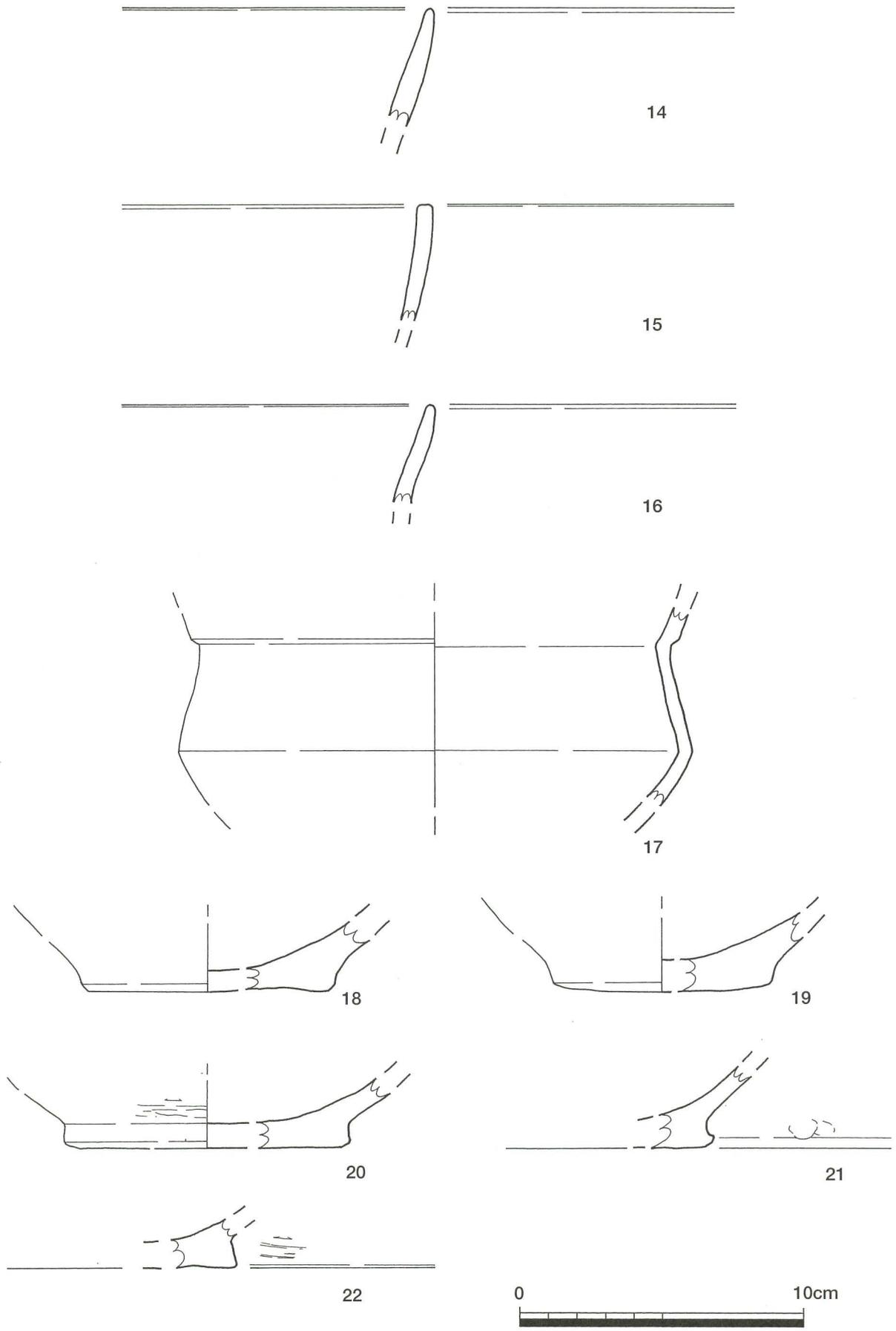
No.36は、安山岩製の敲石である。d面とf面に使用による敲打痕が顕著に認められる。さらに、a面中央部には敲打痕による窪みが認められることから、凹石的な利用もあったと想定できる。a面上部は使用による加撃によって欠損している。

No.37は、粘板岩製の扁平打製石斧である。扁平打製石斧の表裏面の観察から、両端からの大まかな調整が主体を占めており、刃部とb面左側面に僅かに細かな調整が施されているのみである。基部には細かな調整は施されておらず、大まかな荒い剥離痕のみで形成されている。ただし、b面中央右側面にはソケットに装着することを目的とした調整痕が認められる。

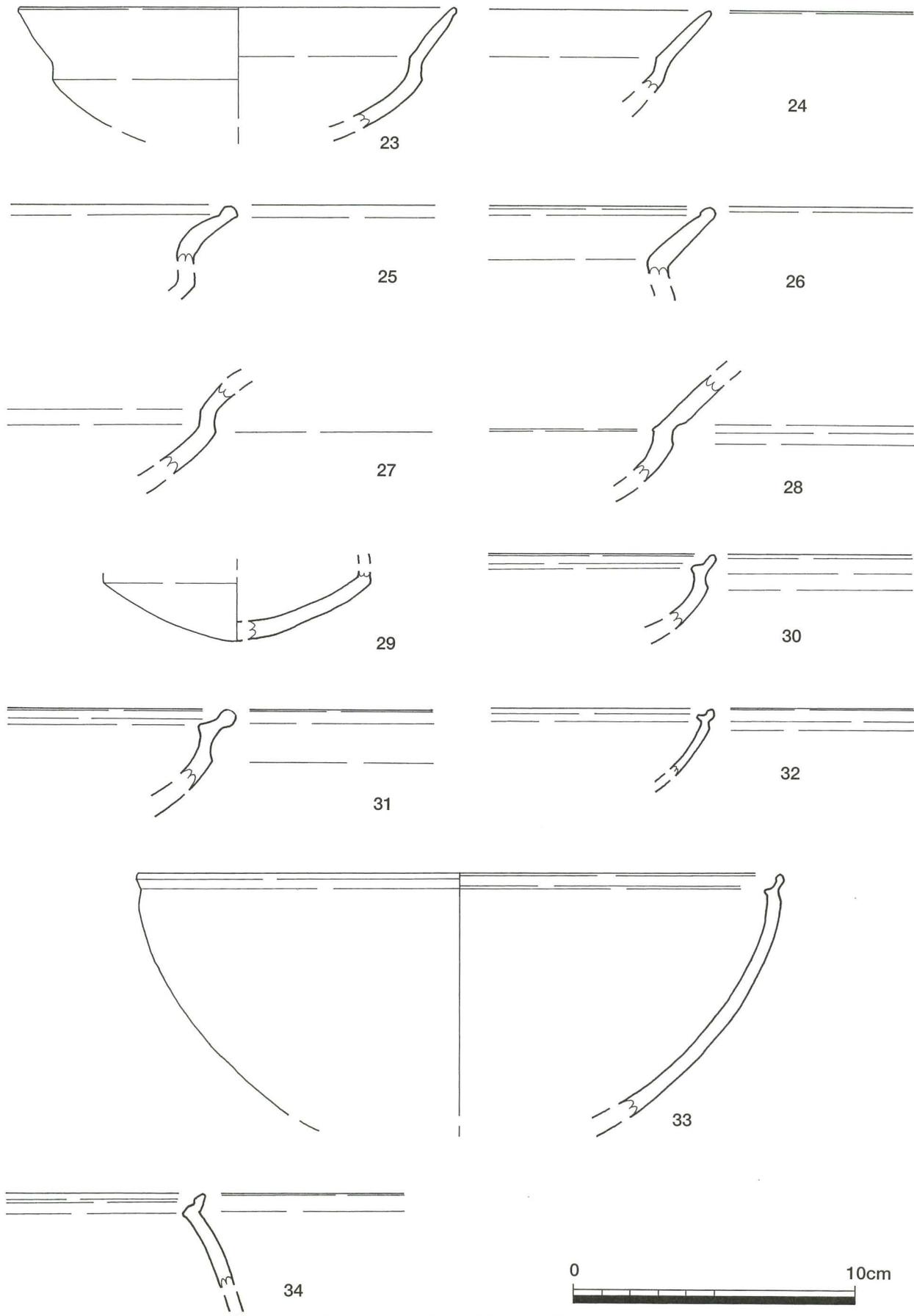
No.38は、最大長23.9cm、最大幅11.5cmをはかり、周辺の調整のあり方や形状から扁平打製石斧の素材と考えられる。また、a面右側面と刃部側に調整が認められることから、製品として利用された可能性も伺える。南摺ヶ浜遺跡の同一包含層からは、石斧製作に伴う調整剥片が多く出土していることから、当遺跡地内での素材確保→石斧素材→石斧製作→使用・廃棄までの一連の石斧製作が行われていたと考えられる。



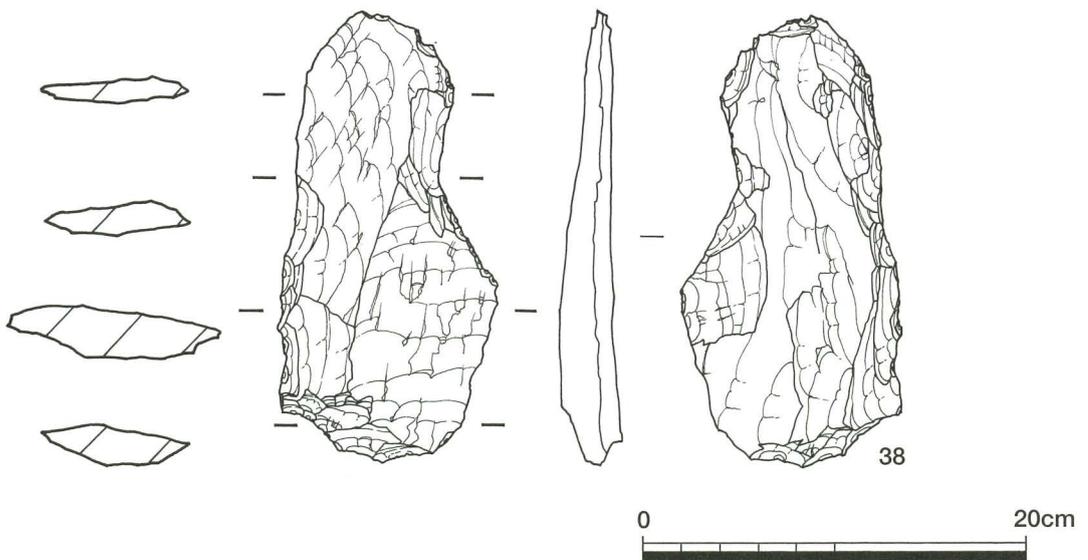
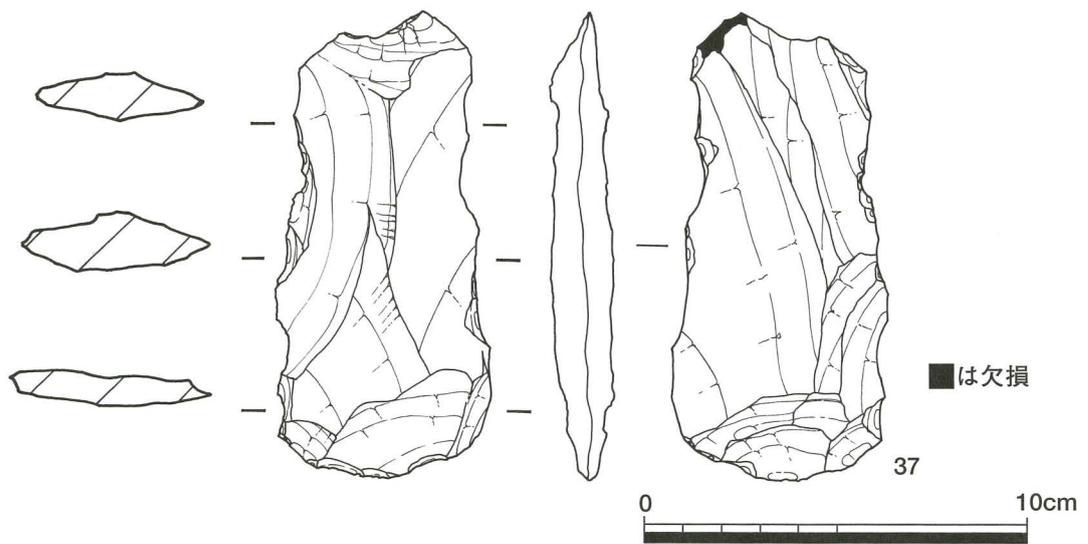
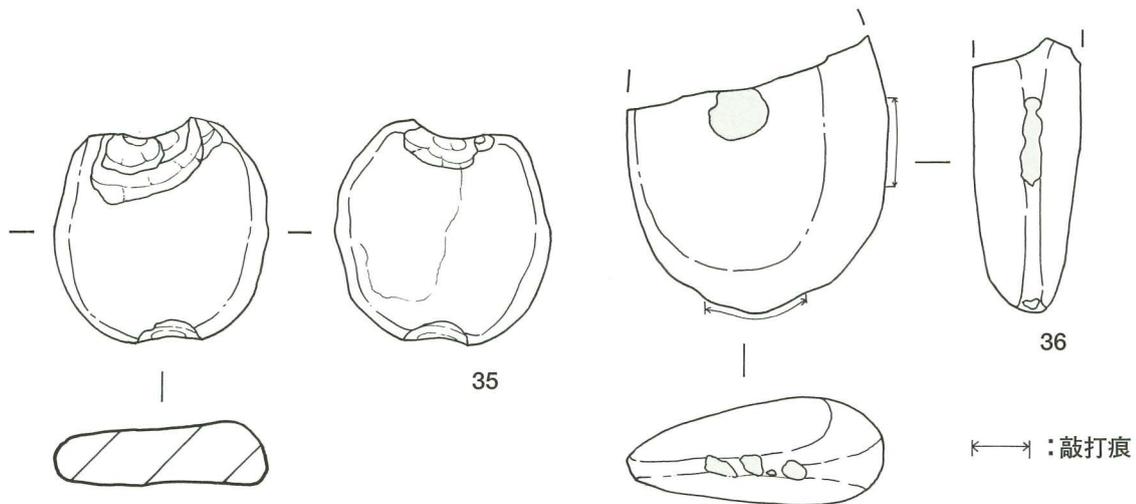
第11図 2 トレンチ出土遺物実測図② (S=1/2)



第12図 2トレンチ出土遺物実測図③ (S=1/2)



第13図 2 トレンチ出土遺物実測図④ (S=1/2)



第14図 2トレンチ出土遺物実測図⑤ (35~37 S=1/2, 38 S=1/4)

表1 南摺ヶ浜遺跡遺物観察表1  
2 トレンチ

図番	取上げNO	器種	残存法量	部位	色 外	色 内	色 肉	色 他	胎土粒	混和材	調整	焼成・その他	出土層位	接合
1	376	深鉢形土器	破片	口縁部	7.5YR4/2 5YR3/1	7.5YR4/2 10YR4/1 7.5YR5/5	7.5YR5/2 10YR4/2		微砂粒を若干含む	白黒 外	内・工具によるナデのちナデ 外・ナデ 沈線 口唇・ヨコナデ	傾き疑問 良好	15	386
2	321	深鉢形土器	破片	口縁部	7.5YR5/3	5YR5/3 10YR4/2	10YR4/3 2.5YR4/2		微砂粒を若干含む	白黒 外	内・ナデ 外・ナデ 沈線 口唇・ヨコナデ	傾き疑問 良好	15	
3	295	深鉢形土器	破片	口縁部	7.5YR4/1 7.5YR4/2	10YR4/1 7.5YR4/1	2.5YR4/1		微砂粒を若干含む	カ白 七黒	内・工具によるナデのちナデ 外・貝殻条痕 口唇・ヨコナデ	傾き疑問 良好	15	
4	319	深鉢形土器	破片	口縁部	7.5YR5/3 7.5YR4/1	5YR4/3 7.5YR4/2	10YR5/3		微砂粒を若干含む	白黒 外	内・ナデ 外・沈線 ナデ 口唇・ナデ	傾き疑問 良好	15	
5	238	深鉢形土器	破片	口縁部	10YR4/2	7.5YR4/2	5YR4/3		微砂粒を若干含む	カ白 七黒 外	内・ナデ 外・沈線 ナデ 口唇・ナデ	傾き疑問 良好	15	
6	400	深鉢形土器	破片	口縁部	10YR4/3 7.5YR4/2	7.5YR4/2 7.5YR5/3	7.5YR4/3		微砂粒を若干含む	カ白 七黒 外	内・ナデ 外・沈線 ナデ 口唇・ナデ	傾き疑問 良好	15	
7	15	深鉢形土器	破片	口縁部	5YR5/3	5YR5/3	7.5YR5/4		微砂粒を若干含む	カ白 七黒 外	内・ナデ 外・ナデ 口唇・ナデ	傾き疑問 良好	13	
8	343	深鉢形土器	破片	口縁部	10YR5/2	7.5YR4/2	10YR5/4		微砂粒を若干含む	カ白 七黒 外	内・ナデ 外・ナデ 口唇・ナデ	傾き疑問 良好	15	
9	78	深鉢形土器	破片	口縁部	7.5YR4/1 10YR5/2	7.5YR4/1	7.5YR6/6		微砂粒を若干含む	白黒 外	内・工具によるナデのちナデ 外・ナデ 口唇・ヨコナデ 突・ヨコナデのちツمامミ	傾き疑問 良好	14	
10	255	深鉢形土器	破片	口縁部	2.5YR4/4 10YR4/1	7.5YR4/2 10YR3/1	7.5YR5/4		微砂粒を若干含む	白黒 外	内・研磨 外・研磨 口唇・ヨコナデ	傾き疑問 良好	15	
11	32	深鉢形土器	破片	口縁部	7.5YR5/2	10YR3/1	7.5YR4/3		微砂粒を若干含む	白黒 外	内・ナデ 外・ナデ 口唇・ナデ	傾き疑問 良好	14	
12	299	深鉢形土器	破片	口縁部	7.5 R 5/3	7.5 R 4/2 7.5YR5/3	5YR6/6		微砂粒を若干含む	白黒 外	内・工具によるナデのちナデ 外・ナデ 口唇・ヨコナデ	傾き疑問 良好	15	300
13	420	深鉢形土器	破片	口縁部	10 R 2/1	2.5 R 3/1	10 R 2/1		微砂粒を若干含む	白黒 外	内・ナデ 外・ナデ 口唇・ヨコナデ 突・ヨコナデ	傾き疑問 良好	15	
14	316	深鉢形土器	破片	口縁部	10YR4/1 7.5YR5/2	7.5YR4/1	10YR5/3		微砂粒を若干含む	白黒 外	内・ナデ 外・ナデ 口唇・ナデ	傾き疑問 良好	15	
15	379	深鉢形土器	破片	口縁部	5YR3/2	5YR5/3 10YR3/1	5YR5/4		微砂粒を若干含む	白黒 外	内・工具によるナデのちナデ 外・ナデ 口唇・ヨコナデ 突・ヨコナデのちツمامミ	傾き疑問 良好	15	

表 2 南摺ヶ浜遺跡遺物観察表 2

図番	取上げNO	器種	残存法量	部位	色 外	色 内	色 肉	色 他	胎土粒	混和材	調整	焼成・その他	出土層位	接合	
16	168	深鉢形土器	破片	口縁部	7.5YR4/1 7.5YR4/4	7.5YR4/3 7.5YR2/1	7.5YR6/4		微砂粒を若干含む	白 黒	内・研磨 外・研磨 口唇・ヨコナデ	傾き疑問 良好	14	322 (15層)	
17	305	深鉢形土器	破片	胴部					微砂粒を若干含む	カ 白 外	七 黒	内・ナデ 外・ナデ	良好	15	
18	240	深鉢形土器	破片 底径9cm	底部					微砂粒を若干含む	カ 白 外	七 黒	内・ナデ 外・ナデ 底・ナデ	良好	15	
19	241	深鉢形土器	破片 底径7.6cm	底部	7.5YR4/1 2.5YR6/3	10YR4/1	10YR5/6 7.5YR5/4	底 7.5YR5/3 10YR5/2	砂粒を若干含む 細・微砂粒を含む	七 黒	白 外	内・ナデ 外・ナデ 底・無調整	良好	15	242
20	136	深鉢形土器	破片 底径10cm	底部	7.5YR5/3	7.5YR5/3	2.5Y5/1 7.5YR5/3	底 7.5YR5/3 10YR5/2	砂粒を若干含む 細・微砂粒を含む	七 黒	白 外	内・ナデ 外・工具による ナデのちナデ 底・無調整	良好	14	252 (15層)
21	17	深鉢形土器	破片	底部	7.5YR4/1	10YR4/1 7.5YR5/2	5R3/1 2.5Y6/4	底 10YR5/2	砂粒を若干含む 細・微砂粒を若干含む	カ 白 外	七 黒	内・ナデ 外・ナデ・ユビ オサエ 底・無調整	良好	15	
22	109	深鉢形土器	破片	底部	5YR5/2	5YR5/2	5YR2/5	底5YR5/2	微砂粒を若干含む	白 外		内・ナデ 外・ナデ 底・ナデ	良好		
23	92	浅鉢形土器	破片1/6 残存 口径 15.6cm	口縁部 ~胴部	7.5YR4/1 10YR2/1 5YR5/3	7.5YR4/1 5YR5/3	5YR5/3		微砂粒を若干含む	七 黒	白 外	内・研磨 外・研磨 口唇・ヨコナデ	傾き疑問 良好	15	372
24	403	浅鉢形土器	破片	口縁部	10YR3/1 2.5YR5/1	10YR3/1	10YR6/3		微砂粒を若干含む	白 黒	外	内・研磨 外・研磨 口唇・ヨコナデ	傾き疑問 良好	15	
25	418	浅鉢形土器	破片	口縁部	7.5YR4/2	2.5Y4/1 10YR5/2	5YR3/1 10YR5/2		微砂粒を若干含む	白 黒	外	内・ナデ 外・ナデ 口唇・ヨコナデ	傾き疑問 良好	15	
26	340	浅鉢形土器	破片	口縁部	7.5YR5/3	7.5YR5/2	10YR6/4		微砂粒を若干含む	白 黒	外	内・ナデ 外・研磨 口唇・ヨコナデ	傾き疑問 良好	15	
27	318	浅鉢形土器	破片	胴部	7.5YR3/1	7.5YR4/1	7.5YR3/1 10YR5/4		微砂粒を若干含む	白 黒	外	内・ナデ 外・研磨	傾き疑問 良好	15	
28	209	浅鉢形土器	破片	胴部	10YR3/1	10YR3/1	7.5YR6/6		微砂粒を若干含む	七 黒	白 外	内・研磨 外・研磨	傾き疑問 良好	15	
29	279	浅鉢形土器	破片	底部~ 胴部 1/6 残存 胴径 9.4cm	7.5YR4/1	7.5YR4/1 5YR5/3	7.5YR4/1 5YR6/4		微砂粒を若干含む	七 黒	白 外	内・研磨 外・研磨	良好	15	
30	398	浅鉢形土器	破片	口縁部	7.5YR4/1 7.5YR6/4	7.5YR4/1 7.5YR6/4	10YR5/1 7.5YR7/4		微砂粒を若干含む	七 黒	白 外	内・ナデ 外・研磨 口唇・ヨコナデ	傾き疑問 良好	15	

表 3 南摺ヶ浜遺跡遺物観察表 3

図番	取上げNO	器種	残存法量	部位	色 外	色 内	色 肉	色 他	胎土粒	混和材	調整	焼成・その他	出土層位	接合
31	237	浅鉢形土器	破片	口縁部	2.5Y4/1 10YR6/2	10YR3/1	10YR5/3		微砂粒を若干含む	白 黒 白 外	内・研磨 外・研磨 口唇・ヨコナデ	傾き疑問 良好	15	
32	392	浅鉢形土器	破片	口縁部	10YR4/1	10YR4/1	10YR3/1		微砂粒を若干含む	白 外	内・研磨 外・研磨 口唇・ヨコナデ	傾き疑問 良好	15	
33	393	浅鉢形土器	破片 1/4 残存 口径23cm	口縁部 ~胴部	10YR4/1 10YR6/1	7.5YR5/2	10YR5/1		微砂粒を若干含む	カ 七 白 黒 白 外	内・研磨 外・研磨 口唇・ヨコナデ	良好	15	394
34	415	浅鉢形土器	破片	口縁部	5YR6/1 7.5YR4/1	5YR5/4 7.5YR6/1	10YR4/1		微砂粒を若干含む	七 白 黒 外	内・ナデ 外・ナデ 口唇・ヨコナデ	傾き疑問 良好	15	
35	277	石錘	長・5.8cm 短・5.5cm 厚・1.7cm 重・63g	石材・ 安岩岩										
36	350	叩石	長・7.2cm 短・6.8cm 厚・2.7cm 重・180g	石材・ 安山岩										
37	294	扁平打製石斧	長・12.4cm 短・5.6cm 厚・1.4cm 重・100g	石材・ 粘板岩										
38	254	扁平打製石斧素材	長・23.9cm 短・11.5cm 厚・3.3cm 重・680g	石材・ 粘板岩										

3 トレンチ

図番	取上げNO	器種	残存法量	部位	色 外	色 内	色 肉	色 他	胎土粒	混和材	調整	焼成・その他	出土層位	接合
1	46	浅鉢形土器	破片	胴部	7.5YR5/2	7.5YR5/2	10YR5/2 7.5YR6/2		微砂粒を若干含む	カ 白 黒 外	内・研磨 外・研磨	傾き疑問 良好	15	
2	1	深鉢形土器	破片	底部	5YR5/4 7.5YR3/1	10YR5/2	7.5YR4/1 5YR5/6	底 7.5YR4/2	砂粒を若干含む 細・微砂粒を若干含む	カ 七 白 黒 白 外	内・ナデ 外・ナデ 底・無調整	良好	14	



写真8 2トレンチ完掘状況



写真9 2トレンチ地層①

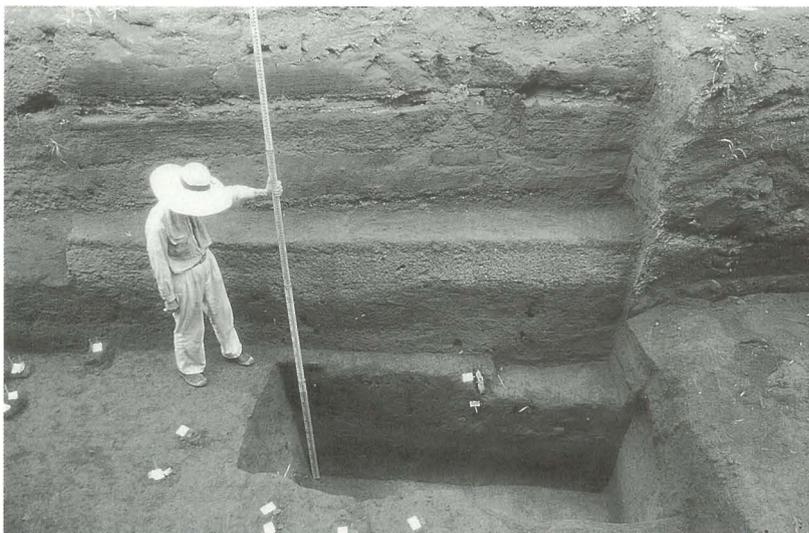


写真10 2トレンチ地層②

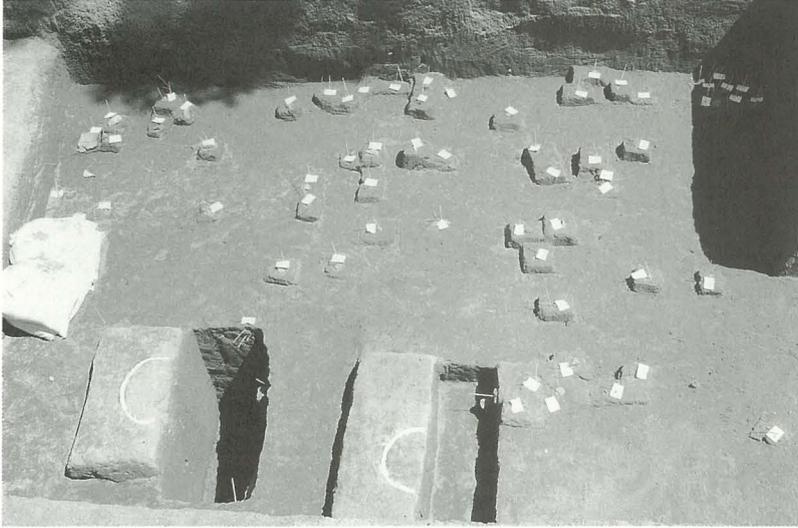


写真11 2トレンチ遺物出土状況①

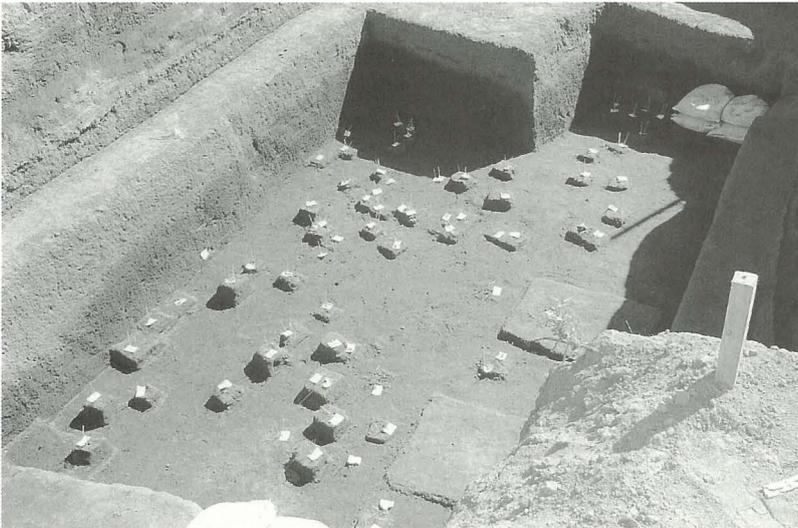


写真12 2トレンチ遺物出土状況②



写真13 2トレンチ遺物出土状況③

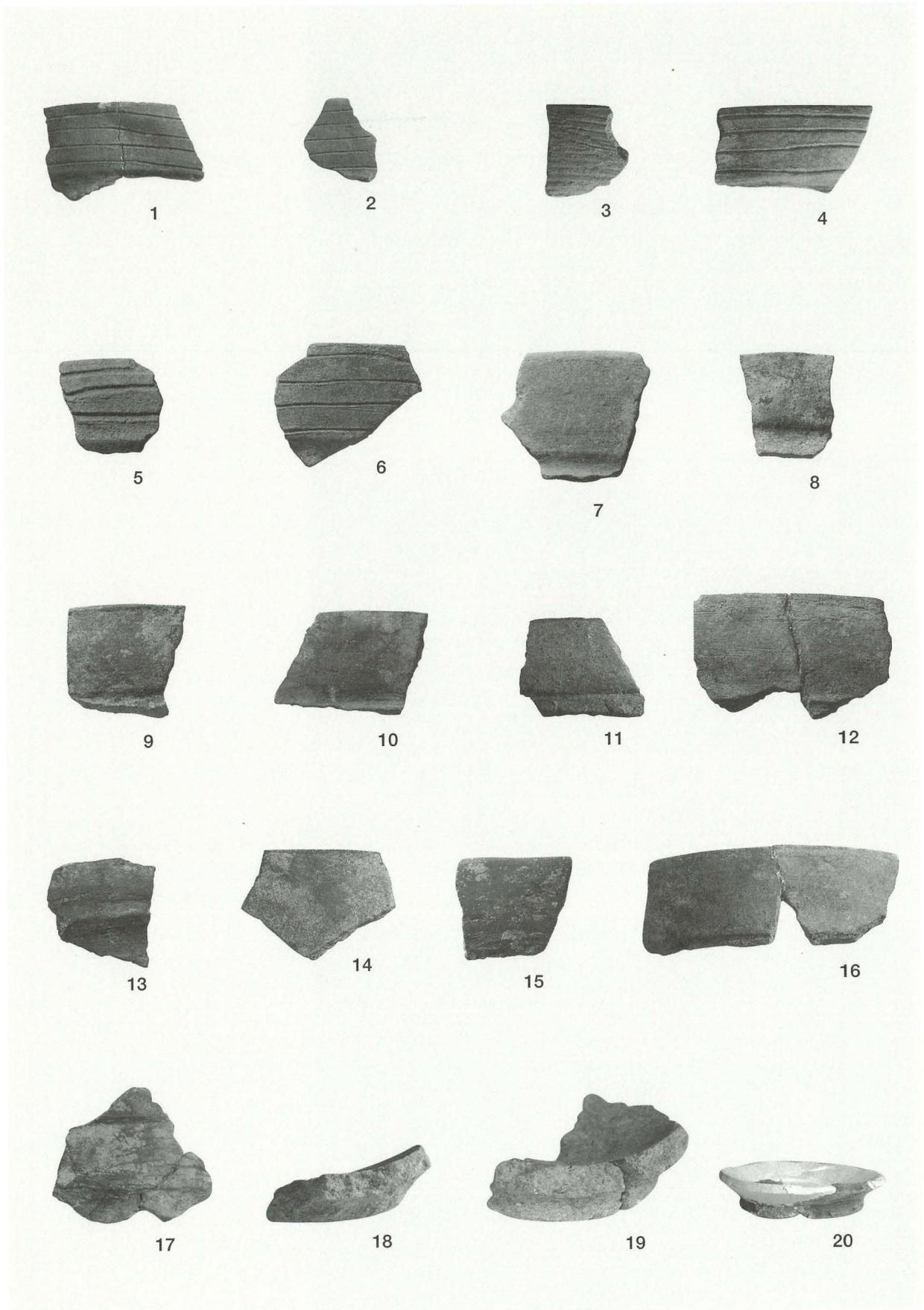


写真14 2トレンチ出土遺物①

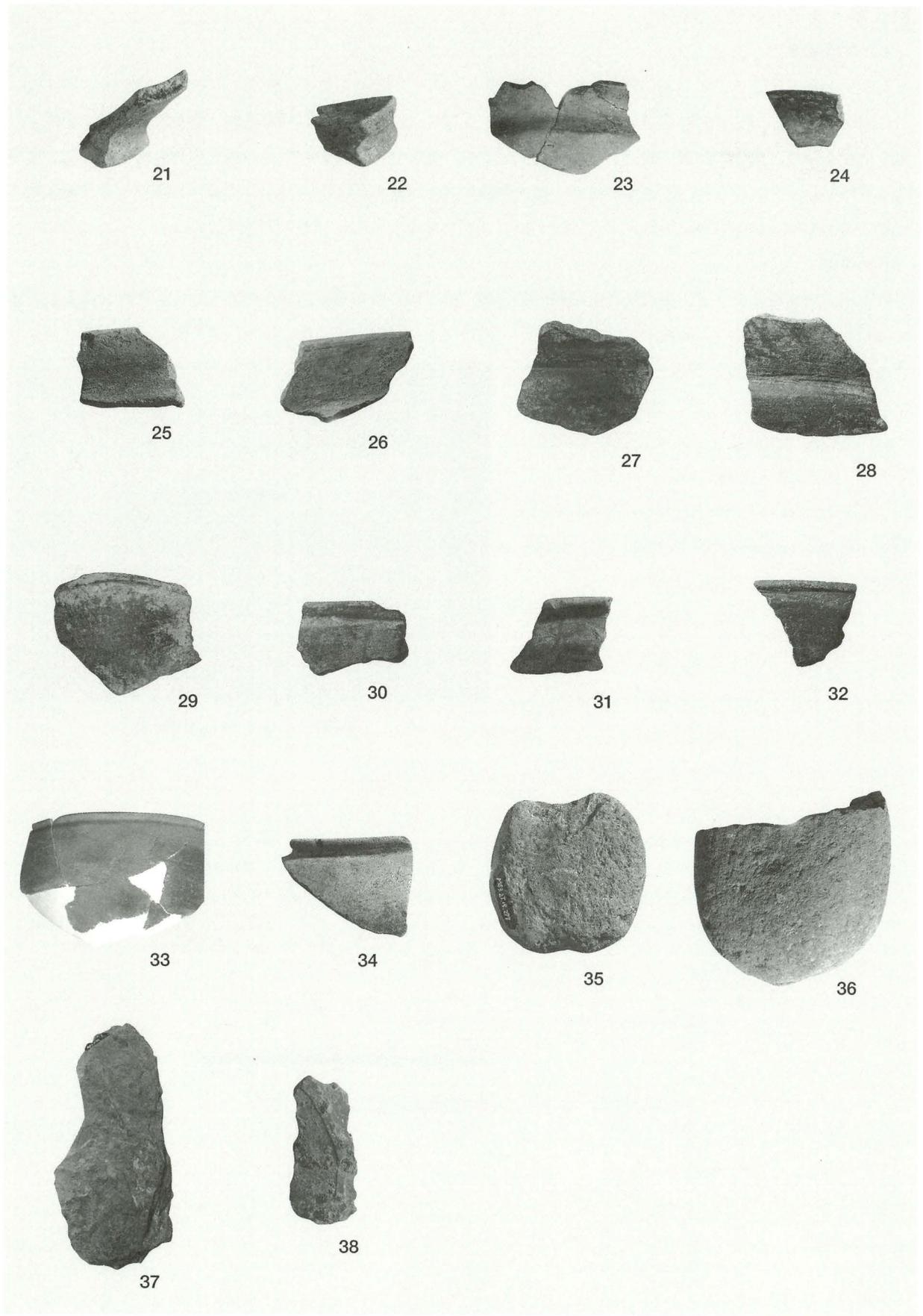


写真15 2トレンチ出土遺物②

### 第3節 3トレンチの調査

#### (1) 調査成果

1トレンチ、及び2トレンチの間に3.5×8mの3トレンチを設定した。重機による表土の除去後、第5層以下、現地表下約2mまで掘り下げを行った。紫コラ直下には、パックされた植物遺体（葉の断片など）が多量に見られたものの、畑等の遺構は確認されなかった。また、青コラ上面においても、第6層から掘り込まれた遺構は見られなかった。第6層、及び第9層からは、遺物の出土は見られなかった。第13層～15層からは、縄文時代晩期の土器片等、約60点が出土し、また15層上面で13層を埋土とするピット1基を確認した。

#### (2) 層位

第1層、第6層、第9層、第11層、第13層～第15層、第17層～第19層の13層を確認した。いずれも山手から海岸に向けて緩傾斜しながら堆積している。第6層上面まですでに削平を受けていた。第7層は、最下部にスコリアのルーズな堆積が確認されたが、青コラはブロック状に残存するのみで、安定した堆積ではない。第13層～15層は20～30cmの層厚で堆積しており、遺物の出土が見られた。黄コラは、2トレンチ同様ブロック状に堆積し、下層から遺物の出土は見られなかった。第20層上面を検出した段階で調査を終え、埋め戻した。

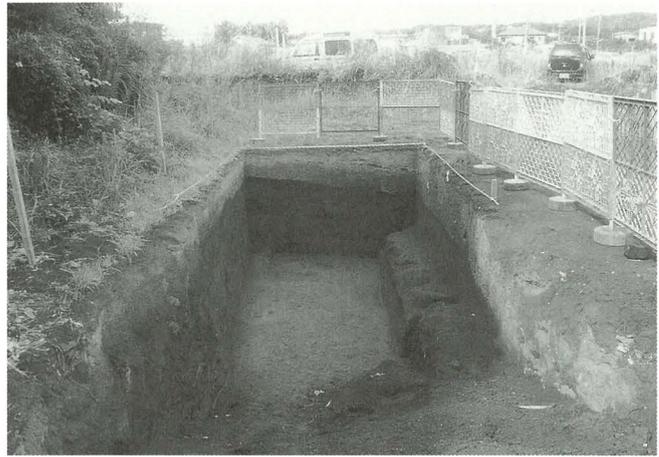
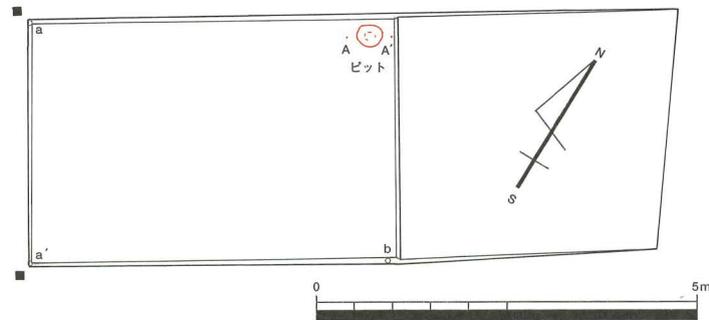
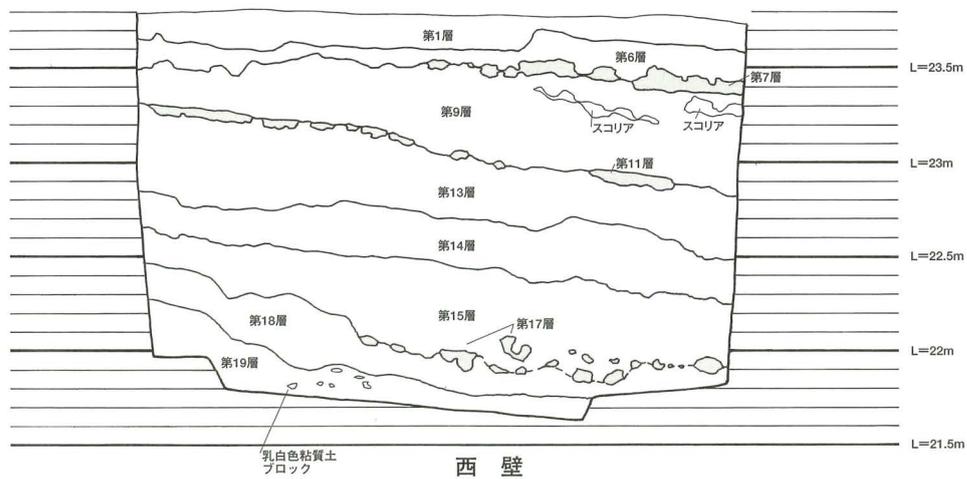
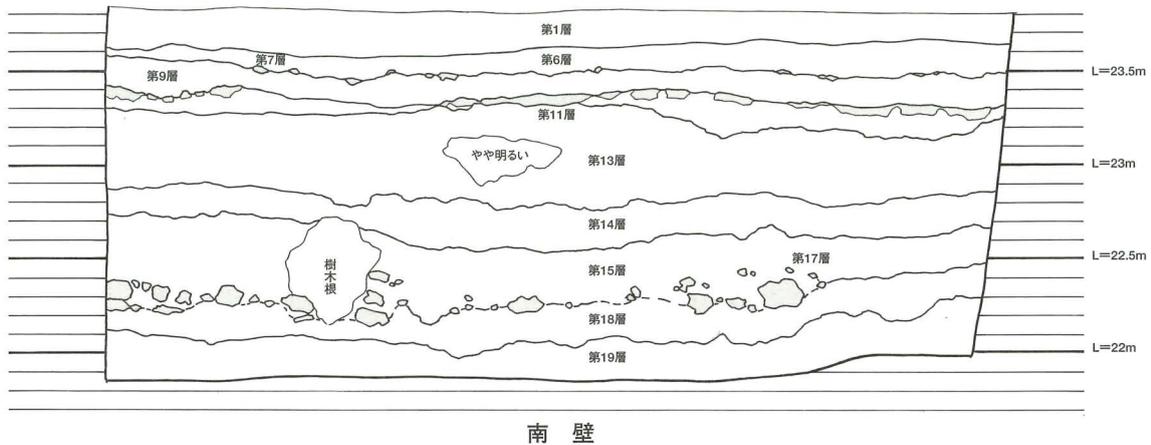


写真16 3トレンチ全景



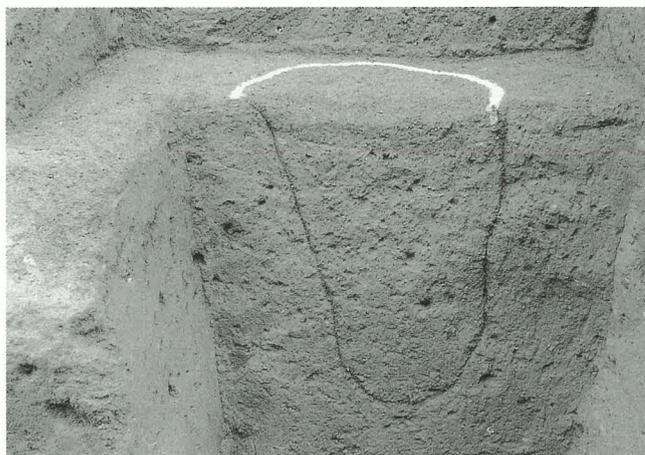
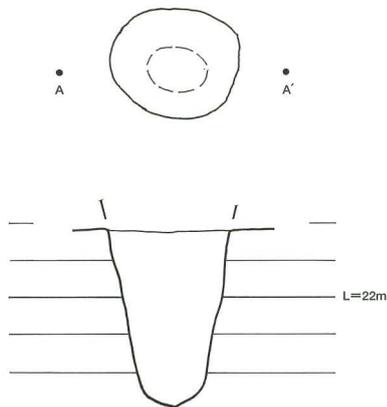
第15図 3トレンチ完掘状況図 (S=1/100)



第16図 3トレンチ層位断面図 (S=1/40)

### (3) 3トレンチの遺構

第15層上面において、第13層を埋土とするピット1基を検出した。平面を検出した後、半裁して断面の状況を確認した。ピットは、長径約34cm、短径約29cm、検出面からの深さ約46cmを計る。



第17図 ピット平面図・断面図 (S=1/20)

写真17 ピット断面状況

### (4) 3トレンチの遺物

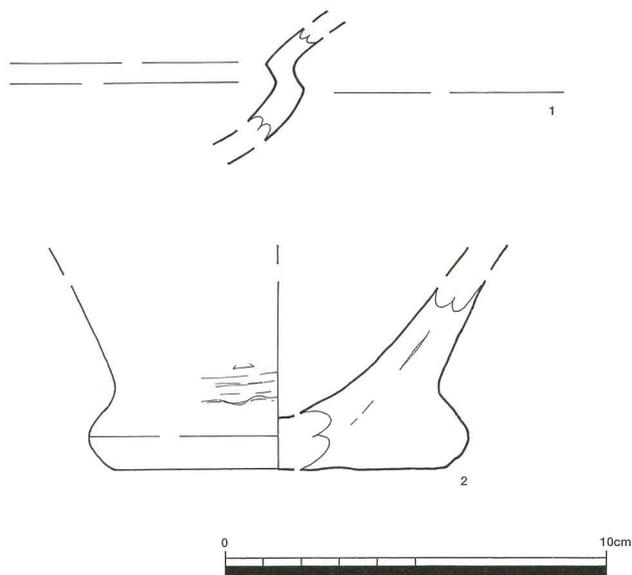
3トレンチの遺物の出土状況は第19図のとおりである。第13層、第14層、第15層から出土した遺物のうち、2点を図化した。

#### 浅鉢形土器 (No. 1)

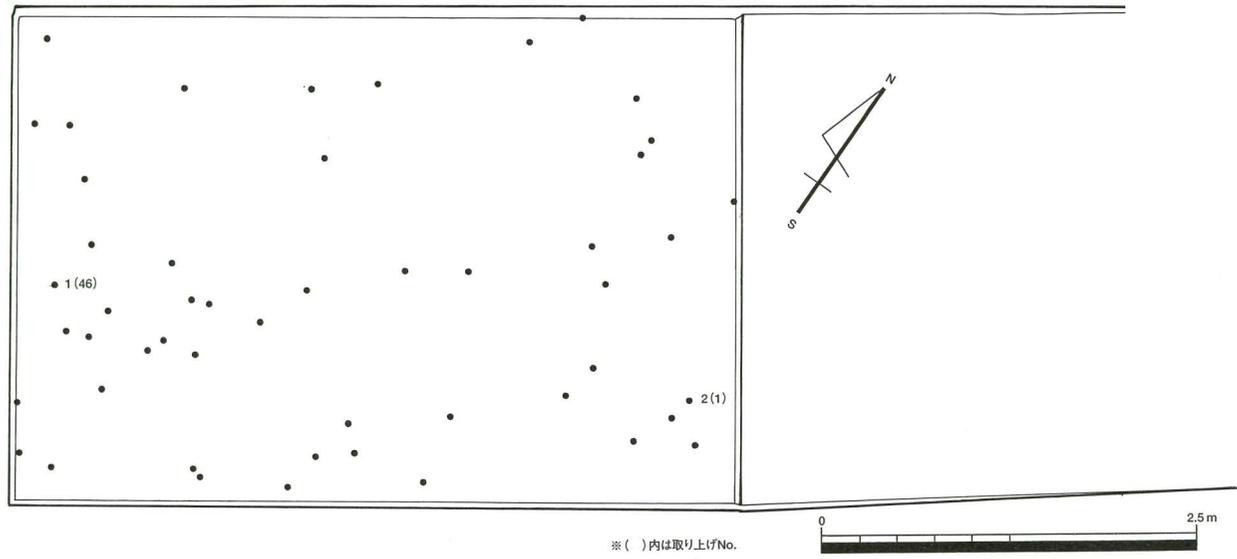
No. 1は、浅鉢形土器の胴部の破片である。胴部で屈曲し、口縁部は外開きに直行する口縁部へ続くものと思われる。内外面に明瞭な稜をもち、研磨が施されている。

#### 深鉢形土器 (No. 2)

No. 2は、底部の破片である。平底を呈し、やや外開きの胴部へと移行するものと思われる。



第18図 3トレンチ出土遺物実測図 (S=1/2)



第19図 3 トレンチ遺物出土状況図 (S=1/50)



写真18 3トレンチ完掘状況

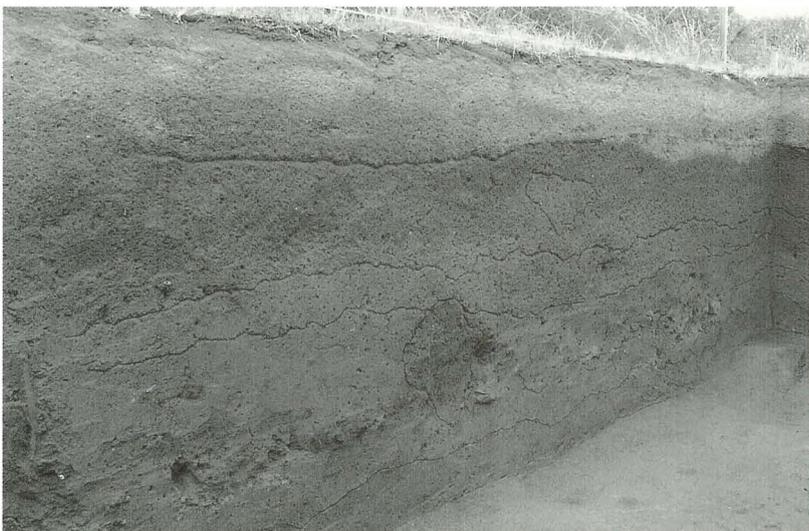


写真19 3トレンチ地層①



写真20 3トレンチ地層②



写真21 3 トレンチ遺物出土状況

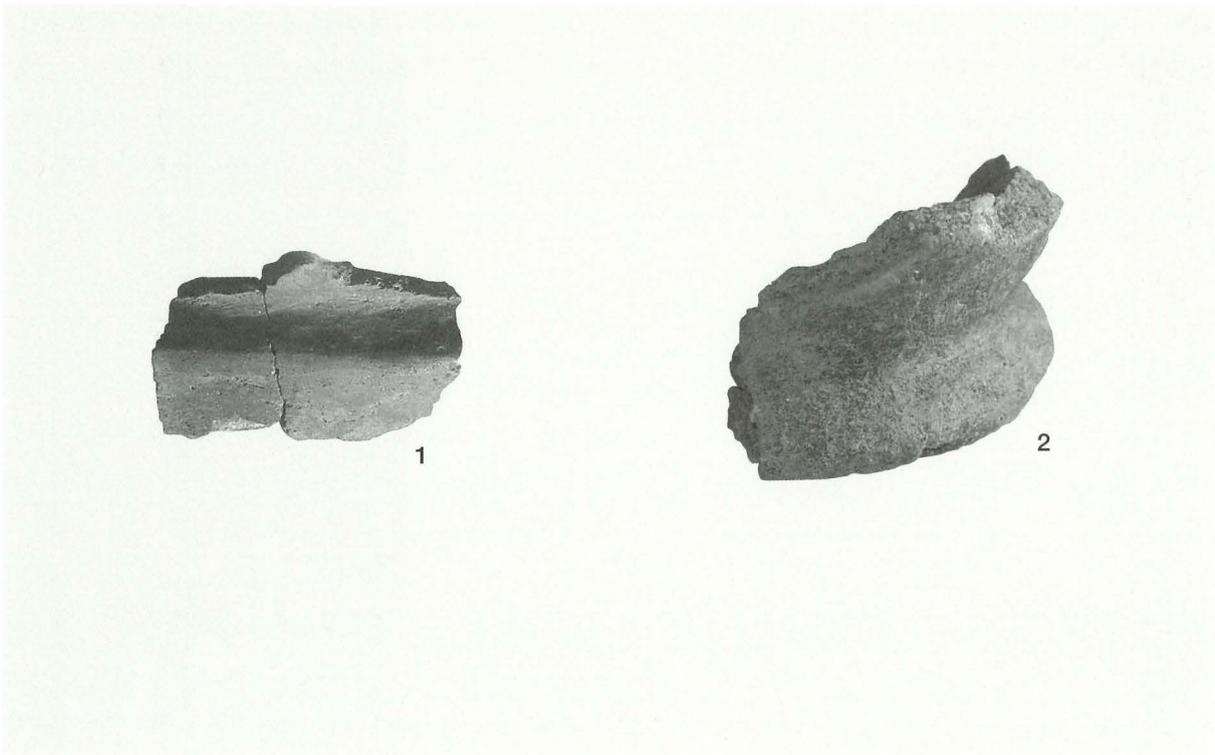


写真22 3 トレンチ出土遺物

## 第5章 確認調査のまとめ

南摺ヶ浜遺跡は、平成4年度の民間開発に伴う確認調査によって、南薩では3例目となる土壙墓群が確認され、衆目を集めた。今回調査した2、3トレンチは、土壙墓群が検出された地点に近接していたため、その広がりを確認できるのではと期待されたが、両トレンチともに遺構は見られなかった。さらには、2トレンチにおいては当該層（第9層）から少量の土器片が確認されたのみで、3トレンチは遺物の出土も見られなかった。現況の地形を見ると調査地点は、現在の県道を挟み、土壙墓群が検出された地点より約2m高い範囲に位置することもあり、土壙墓群は、今回の調査地点までは広がっていない可能性もある。ただし、2箇所の確認調査で、調査面積も狭いため、性急に結論付けることは危険であろう。なお、上位の第6層、及び青コラ上面では、いずれの地点からも遺構は確認されず、遺物も2トレンチで土器の破片が1点出土したのみであるため、当該期における、当地での生活の痕跡は希薄であると推定される。

ところで、今回の調査では、縄文時代晩期に相当する遺物が2、3トレンチから出土した。遺物の出土のピークは第14層、第15層である。調査時点では、土層中に含まれる橙色の粒子の多少に着目し分層したが、基本的には同質の地層であり、両層から出土した遺物が接合することもあることから、大きな時期差はないものと考えられる。出土した土器のほとんどは、入佐式土器の範疇に含まれるものと思われる。後続する黒川式土器と判断しうる土器片は1点のみであった。出土状況を見ると、土器はすべてが破片、あるいは破片で、包含層の傾斜に沿って散布している状況が見られた。しかしながら、打製石斧やその素材、剥片類、磨石、黒曜石製の石核素材など、おおむね原位置を保って出土していると推定される遺物も見られる。現況地形を見ると調査地点の南側は丘状の台地があり、集落等が営まれていたとすれば、この台地上が、より遺跡の中心に近い可能性もある。

さて、今回の調査結果から、①土壙墓群の範囲の確定、②縄文時代晩期の生活範囲と遺跡の性格の把握といった課題がより明確になったものと思われる。これらを踏まえ、南摺ヶ浜遺跡については適切な保存措置が講じられるよう関係機関との調整をすすめる必要がある。

# 矢石遺跡試掘調査編

矢石遺跡は、指宿市十町字矢石、矢石桁に所在する。指宿市誌によると、甕形土器の底部など弥生時代後期の土器片の散布地とある。当該地は指宿市十町土地区画整理事業の対象地であり、平成12年度に指宿市教育委員会において対象地の一部の範囲で分布調査を実施した。今回は、前回、分布調査が行われなかった北側の二反田川近接地に3箇所の試掘トレンチを設定し、地下の状況を確認するために重機による試掘を行った。いずれも現地地表下、約2.5mまで掘削したが、すべて攪乱土で、遺構・遺物は見られなかった。



第20図 矢石遺跡試掘トレンチ位置図

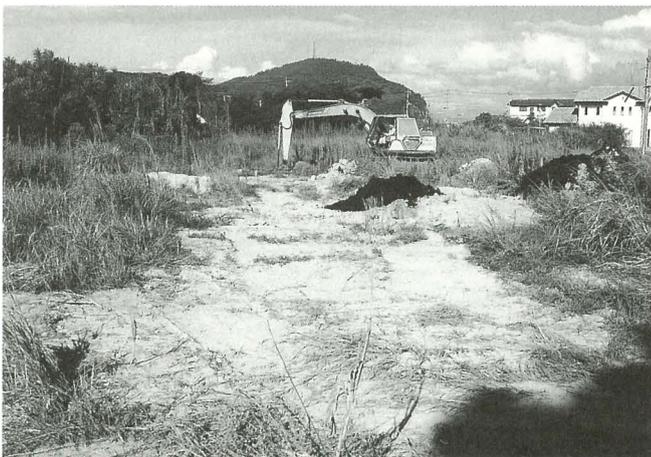


写真23 試掘トレンチ位置

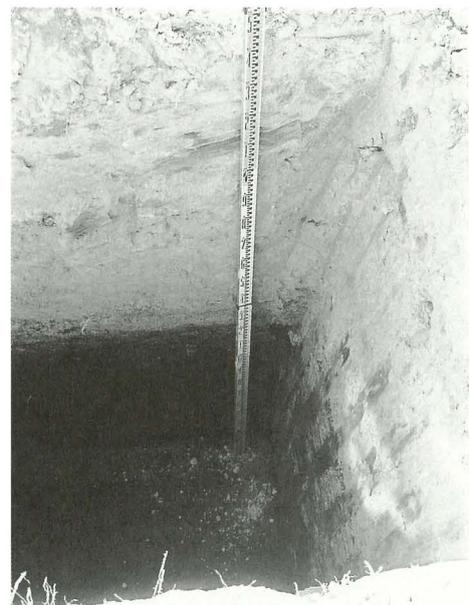


写真24 試掘トレンチ1地層

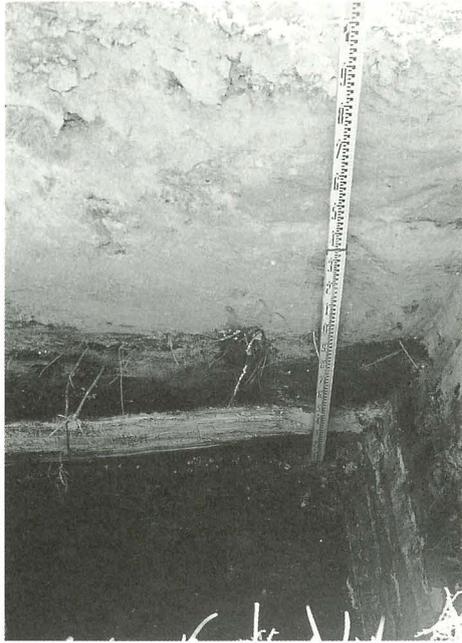


写真25 試掘トレンチ2地層

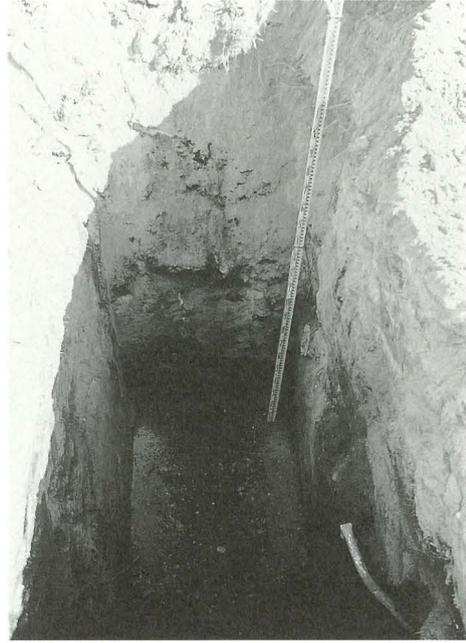
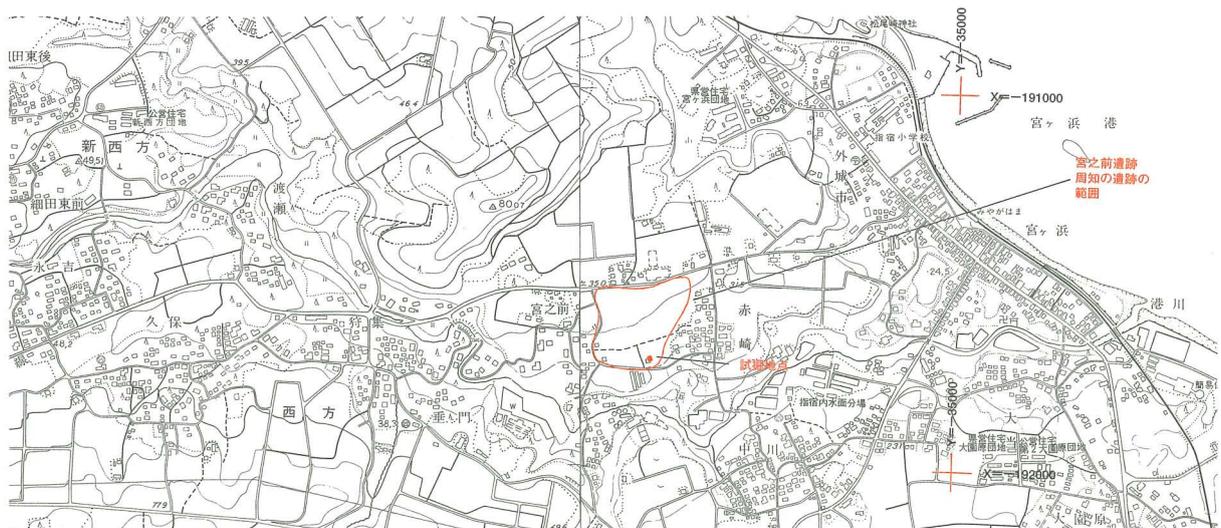


写真26 試掘トレンチ3地層

## 宮之前遺跡試掘調査編

宮之前遺跡は、指宿市西方字九玉原に所在する。県営畑地帯総合土地改良事業に伴い、昭和55年度に確認調査が実施され、約45000㎡に広がる遺跡地であることが確認された。当時の調査で、古墳時代の堅穴住居跡8基をはじめ、当該期の多量の遺物が出土し、古墳時代の集落遺跡であることが確認されたほか、奈良～平安時代の土師器、須恵器も多量に出土し、指宿地域の古代史を考察する上で欠かせない遺跡の一つに挙げられている<sup>(1)</sup>。今回は、個人住宅の建設に伴い試掘調査を実施した。現地表下約50cmのところまで紫コラを確認、その後、掘り上げた廃土中、及びトレンチ壁面から、古墳時代～古代の遺物を採集した。今回は木造住宅の建築で、基礎の掘削深度が20cmと浅く遺物包含層に達しないことから、試掘調査に留めた。

【注】「宮之前遺跡」指宿市教育委員会 1981年



第21図 宮之前遺跡試掘トレンチ位置図

## 出土遺物

試掘トレンチから取り上げた土器片238点の内、26点を図化した。以下にその概要を記す。

## 古墳時代

No.1は、甕形土器の口縁部～突帯部の破片である。口縁部はやや内湾する。口縁部の下位に1条の突帯を巡らす。突帯は断面が低い台形を呈するが、一部に摘み上げたような痕跡が残る。

No.2は、甕形土器の突帯部の破片である。口縁部の下位に1条の突帯を巡らせたものと推定される。突帯には摘み上げたような痕跡が残る。

No.3、4は、甕形土器の底部の破片である。No.3は若干上底を呈す。No.4は、上底を呈す。

No.5は、鉢形土器の口縁部の破片である。口縁部は外反する。器壁が薄く外面は丁寧なミガキが施されている。

No.6は、壺形土器の口縁部の破片である。頸部屈曲部から外反する。口唇部は横ナデによる調整が施され、端部がわずかに窪む。

No.7は、壺形土器の突帯部の破片である。工具による「ハ」の字状のキザミが施されるもので、キザミの部分には工具原体の細かな繊維状の痕跡が一部に残る。

No.8は、埴形土器の胴部の破片である。そろばん玉状の胴部で、屈曲部の内外面には明瞭に稜をもつ。外面は丁寧なミガキが施され、赤色塗彩されている。

No.9は高杯形土器の口縁部の破片である。外面には丁寧なミガキが施されている。

No.10は高杯形土器の口縁部の破片である。内外面には丁寧なミガキが施され、赤色塗彩されている。

No.11は高杯形土器の口縁部の破片である。内外面には丁寧なミガキが施され、赤色塗彩されている。

No.12は高杯形土器の口縁部の破片である。内外面にはナデ調整が施されている。

No.13は高杯形土器の杯部の破片である。外面下位に浅い沈線が巡るが、大きく屈曲はしない。内外面には丁寧なミガキが施され、赤色塗彩されている。

No.14は高杯形土器の脚部～底部の破片である。底部は大きく開く。外面には丁寧なミガキが施されている。

No.15、16は高杯形土器の脚部の破片である。外面には丁寧なミガキが施され、赤色塗彩されている。

No.1～16は、青コラ下位の古墳時代の包含層に帰属するもので、いずれも成川式土器の中でも辻堂原式～笹貫式の範疇に該当する土器と考えられる。

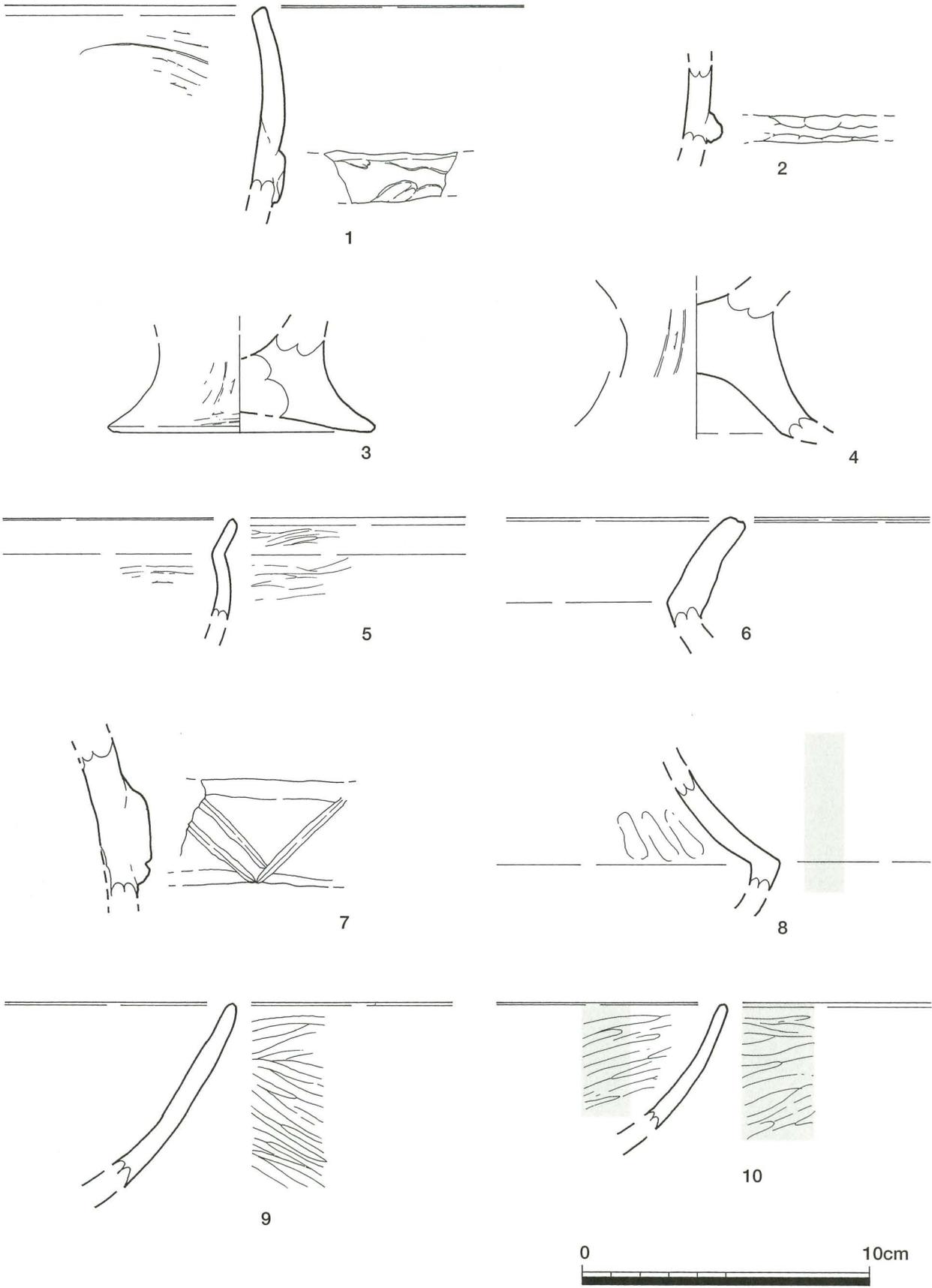
## 奈良～平安時代

No.19は、土師器の皿である。内外面、高台見込み部にロクロ成形時の回転ナデの痕跡が残る。

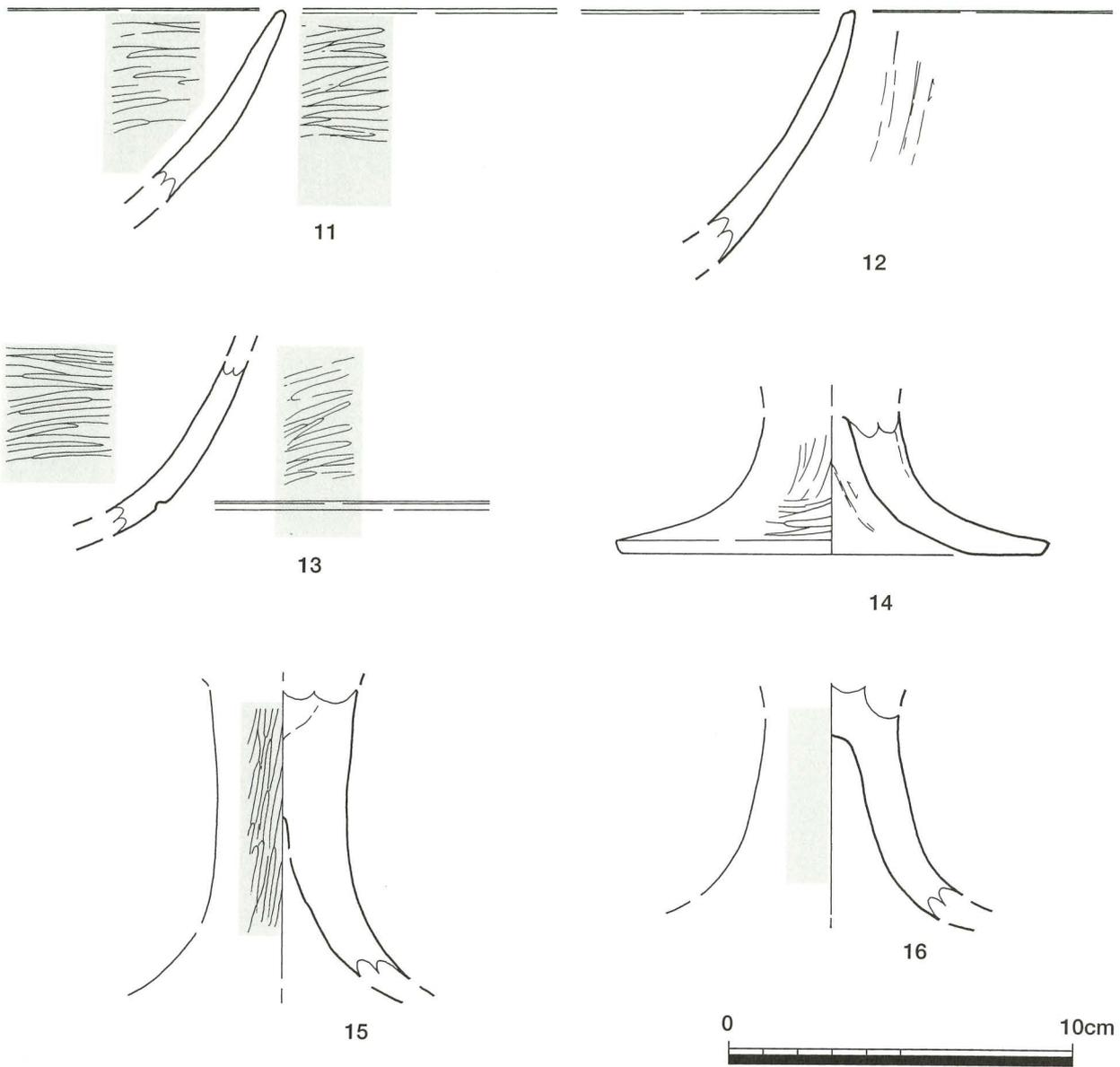
No.20～23は、土師器杯の底部～杯部の破片である。内外面、高台見込み部にロクロ成形時の回転ナデの痕跡が残る。

No.24、25は、土師器杯の底部～杯部の破片である。高台はもたない。内外面にロクロ成形時の回転ナデの痕跡が残る。また、底面に回転ヘラ削りの痕跡が残る。

No.26は、須恵器杯の底部～杯部の破片である。内外面にロクロ成形時の回転ナデの痕跡が残る。



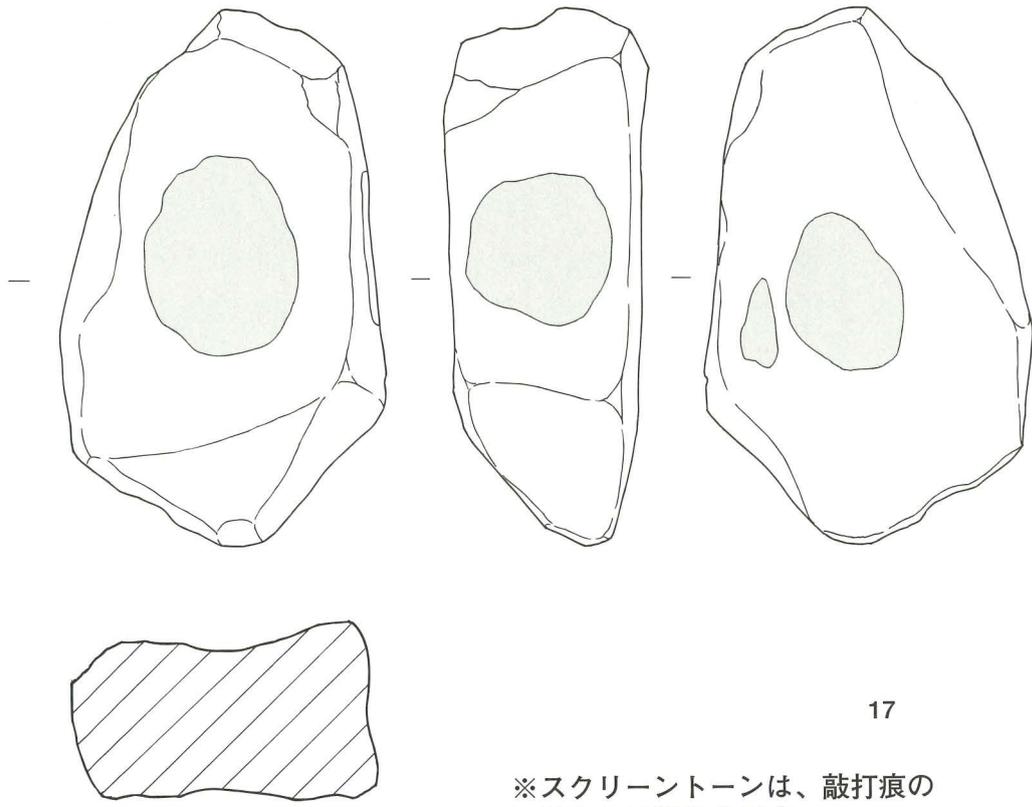
第22図 試掘トレンチ出土遺物実測図① (S=1/2)



第23図 試掘トレンチ出土遺物実測図② (S=1/2)

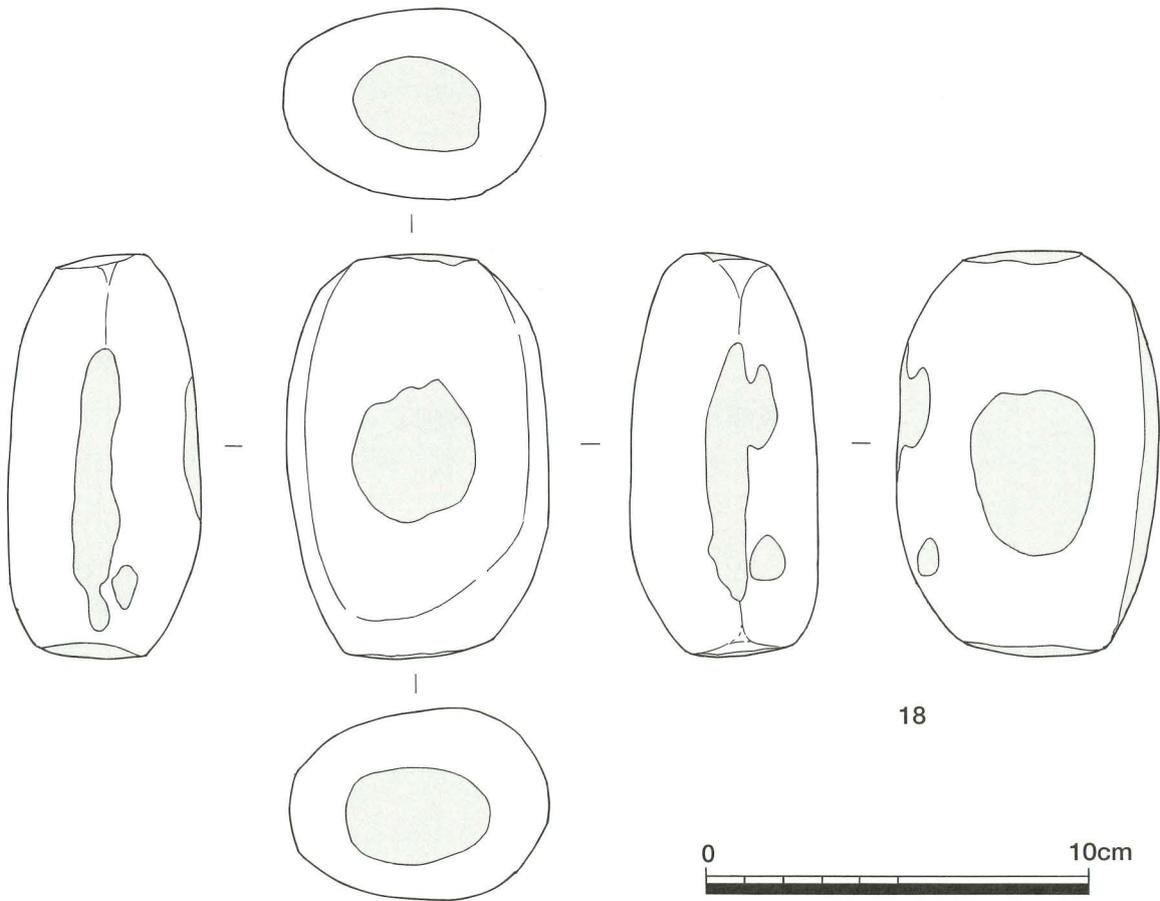
石器

No.25、26は、凹石である。No.26は両側面、及び端部にも敲打痕が認められるため、叩石として使用された可能性もある。No.25は凝灰岩製、No.26は安山岩製である。



17

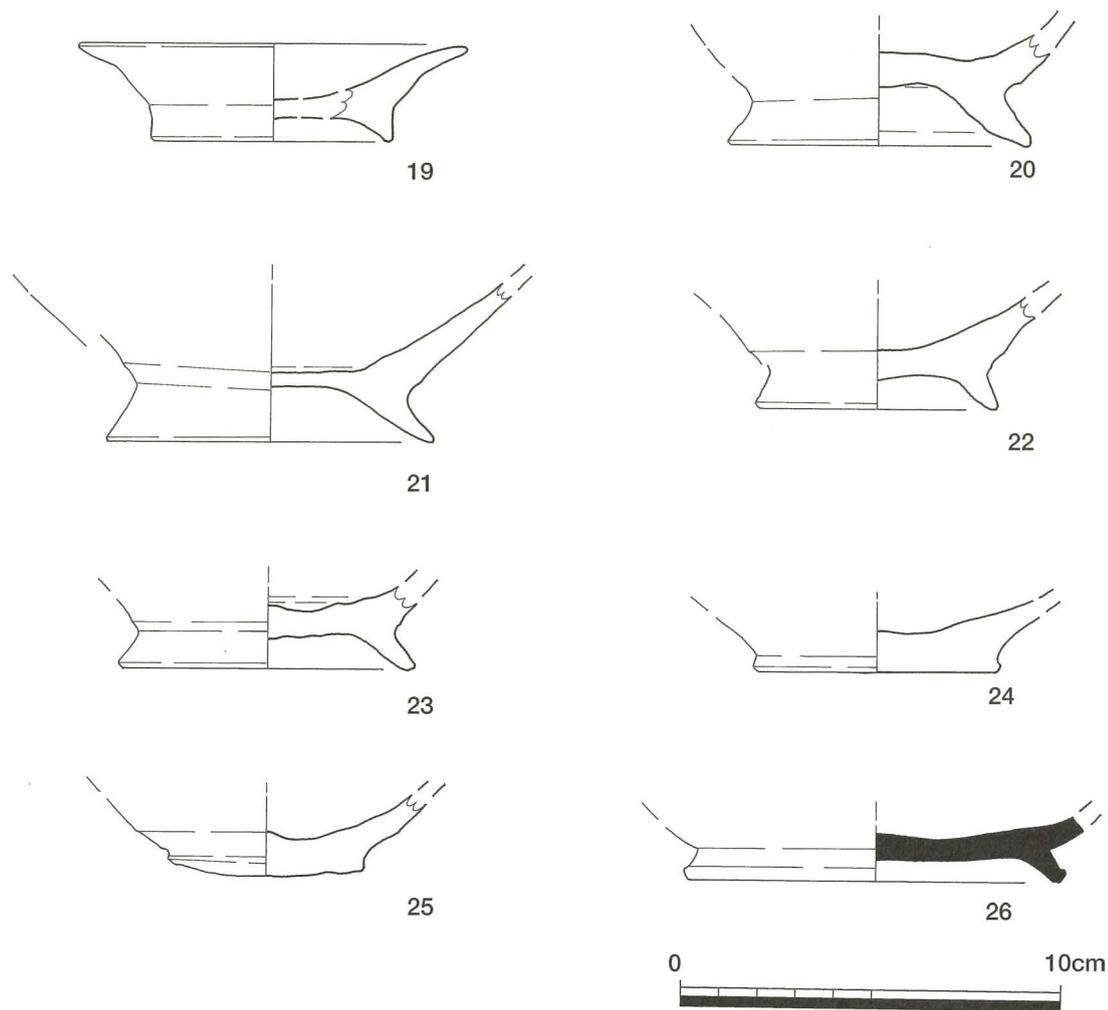
※スクリーントーンは、敲打痕の  
見られる部分を示す。



18

0 10cm

第24図 試掘トレンチ出土遺物実測図③ (S=1/2)



第25図 試掘トレンチ出土遺物実測図④ (S=1/2)

表4 宮之前遺跡遺物観察表1

図番	取上げNO	器種	残存法量	部位	色外	色内	色肉	色他	胎土粒	混和材	調整	焼成・その他	
1	一般	甕形土器	破片	口縁部 ～突帯部	7.5YR5/3 2.5YR6/4	7.5YR6/3	7.5Y4/1		砂粒を若干含む 細・微砂粒を若干含む	カ 白 赤	セ 黒 外	内・工具によるナデのちナデ 外・ナデ 口唇・ヨコナデ 突・ヨコナデのちツمامミ	傾き疑問 良好
2	一般	甕形土器	破片	突帯部	5YR5/3 7.5YR6/2	7.5YR5/3	5G2/1		砂粒を若干含む 細・微砂粒を若干含む	カ 白 外	セ 黒	内・工具によるナデのちナデ 外・ナデ 突・ヨコナデのちツمامミ	傾き疑問 良好
3	一般	甕形土器	破片 底径9.2cm	底部	2.5YR6/6	2.5YR6/6	10YR4/1 2.5YR6/6	底 7.5YR4/1	細・微砂粒を含む	カ 白 外	セ 黒	内・ナデ 外・工具によるナデのちナデ 底・工具によるナデのちナデ	良好
4	一般	甕形土器	破片	底部	2.5YR5/4	2.5Y5/1	2.5YR5/4	脚内 2.5YR5/4	砂粒を若干含む 細・微砂粒を多く含む	カ 白 外	セ 黒	内・無調整 外・工具によるナデのちナデ 底・ナデ	良好
5	一般	甕形土器 or 鉢形土器	破片	口縁部	2.5YR4/3 10YR7/3	7.5YR3/1 10R5/2	2.5YR6/6 5YR5/1		砂粒を若干含む 細・微砂粒を若干含む	カ 白 外	セ 黒	内・工具によるナデのちナデ 外・ミガキのちマメツ 口唇・ヨコナデ	傾き疑問 良好
6	一般	壺形土器	破片	口縁部	2.5YR5/3	5YR5/2	2.5YR5/3		細・微砂粒を多く含む	カ 白 外	セ 黒	内・ナデ 外・ナデ 口唇・ヨコナデ	傾き疑問 良好
7	一般	壺形土器	破片	突帯部	7.5YR5/2 7.5YR4/1	5YR5/4	7.5YR5/3		砂粒を若干含む 細・微砂粒を含む	カ 白 外	セ 黒	内・マメツ 外・ナデ 突・ヨコナデのち工具による キザミ	傾き疑問 良好

表5 宮之前遺跡遺物観察表2

図番	取上げNO	器種	残存法量	部位	色 外	色 内	色 肉	色 他	胎土粒	混和材	調整	焼成・その他	
8	一般	埴形土器	破片	胴部	2.5YR5/4	7.5YR6/3	7.5YR5/1		砂粒を若干含む 細・微砂粒を含む	カ 白 外	セ 黒	内・ユビオサエのちナデ 外・ミガキのち赤色塗彩	傾き疑問 良好
9	一般	高坏	破片	口縁部	2.5YR6/6	5YR6/4 7.5YR6/2	5YR6/4 7.5YR6/2		微砂粒を若干含む	カ 白 外	セ 黒	内・ナデ 外・工具によるナデのちナデ 突・ヨコナデ	傾き疑問 良好
10	一般	高坏	破片	口縁部	10R5/3 10R4/1	10R5/4	10R5/4 2.5YR4/1		微砂粒を若干含む	カ 白 外	セ 黒	内・ミガキのち赤色塗彩のち マメツ 外・ミガキのち赤色塗彩のち マメツ 突・ヨコナデのち赤色塗彩	傾き疑問 良好
11	一般	高坏	破片	口縁部	10R5/4	2.5YR6/4	5YR5/1		微砂粒を若干含む	カ 白 外	セ 黒	内・ナデ 外・ミガキ 突・ヨコナデ	傾き疑問 良好
12	一般	高坏	破片	口縁部	2.5YR5/4 5YR6/4 7.5YR4/1	10R4/1 5YR6/4	5YR5/2 2.5YR6/6		砂粒を若干含む 細・微砂粒を含む	カ 白 外	セ 黒	内・ミガキのち赤色塗彩のち マメツ 外・ミガキのち赤色塗彩のち マメツ 突・ヨコナデのち赤色塗彩	傾き疑問 良好
13	一般	高坏	破片	坏部	10R3/6	2.5YR5/6	2.5YR5/6 5YR7/4		細・微砂粒を微量含む	カ 白 外	黒	内・ミガキのち赤色塗彩 外・ミガキのち赤色塗彩	傾き疑問 良好
14	一般	高坏	破片 底径12.6cm	底部	5YR6/4 N4/0		7.5YR5/3 10YR5/1	脚内 7.5YR7/4	砂粒を若干含む 細・微砂粒を含む	カ 白 外	セ 黒	脚内・工具によるナデのちナ デ 外・ミガキ 脚端・ヨコナデ	良好
15	一般	高坏	破片	脚部	10R5/6		10YR4/1 2.5YR6/6	脚内 5YR6/4	微砂粒を若干含む	セ 黒	白 外	内・無調整 外・ミガキのち赤色塗彩	傾き疑問 良好
16	一般	高坏	破片	脚部	10R4/6		5YR5/2 2.5YR4/2	脚内 5YR5/1	微砂粒を若干含む	カ 白 外	セ 黒	内・無調整 外・ミガキのち赤色塗彩	傾き疑問 良好
17	一般	凹石	長・14.1cm 短・7.9cm 厚・3.8cm 重・860g	石材・ 凝灰岩									
18	一般	凹石	長・10.6cm 短・6.8cm 厚・5.0cm 重・473g	石材・ 安山岩									
19	一般	土師器皿	1/4残存 口・14.6cm 高・2.6cm 底・6.4cm	底部～ 口縁部	5YR6/4	5YR6/4	5YR6/4	高台見込み 部 5YR6/4	細・微砂粒 を若干含む	セ 黒	白	内・回転ナデのちマメツ 外・回転ナデのちマメツ	良好
20	一般	土師器坏	底・1/1残 存 底・8cm	底部	2.5YR6/6 7.5YR7/4	2.5YR6/6	5YR7/4	高台見込み 部 7.5YR7/4	砂粒を若干 含む 細・微砂粒 を若干含む	カ 白 外	セ 黒	内・回転ナデ 外・回転ナデ 高台見込み部・回転ヘラケズ リのちナデ	良好
21	一般	土師器坏	底・4/5残 存 底・8.6cm	底部～ 胴部	2.5YR6/6 N4/0	2.5YR5/6	5YR7/4	高台見込み 部 7.5YR5/3 5YR7/4	砂粒・微砂 粒を若干含 む	カ 白 外	セ 黒	内・回転ナデ 外・回転ナデ 高台見込み部・回転ヘラケズ リのちナデ	良好
22	一般	土師器坏	底・1/1残 存 底・6.4cm	底部～ 胴部	2.5YR6/6	2.5YR6/6	2.5YR6/6	高台見込み 部 2.5YR6/6	細・微砂粒 を若干含む	カ 白 外	セ 黒	内・回転ナデ 外・回転ナデ 高台見込み部・回転ヘラケズ リのちナデ	良好

表6 宮之前遺跡遺物観察表 3

図番	取上げNO	器種	残存法量	部位	色 外	色 内	色 肉	色 他	胎土粒	混和材	調整	焼成・その他
23	一般	土師器坏	底・5/6 残存 底・7.8cm	底部	2.5YR6/6	2.5YR6/6	2.5YR6/6	高台見込み部 2.5YR6/6	砂粒を若干含む 細・微砂粒を若干含む	カ黒 白外	内・回転ナデ 外・回転ナデ 高台見込み部・回転ヘラケズリ	良好
24	一般	土師器坏	底・3/4 残存 底・6.6cm	底部	7.5YR6/4	7.5YR6/4	7.5YR6/4	底 7.5YR6/4	微砂粒を若干含む	カ黒 白外	内・回転ナデ 外・回転ナデ 底・無調整	良好
25	一般	土師器坏	底・1/1 残存 底・5.2cm	底部	5YR6/6	5YR6/6	5YR6/6	底5YR6/6	細・微砂粒を若干含む	カ黒 白外	内・回転ナデ 外・回転ナデ 底・回転ヘラケズリ	良好
26	一般	須恵器坏	底・3/4 残存 底・10cm	底部	N4/0	10YR6/1	10YR6/1	高台見込み部 N4/0 10YR6/1	微砂粒を若干含む	カ白外 セ黒	内・回転ナデ 外・回転ナデ 底・回転ヘラケズリ	良好



写真27 試掘トレンチ全景

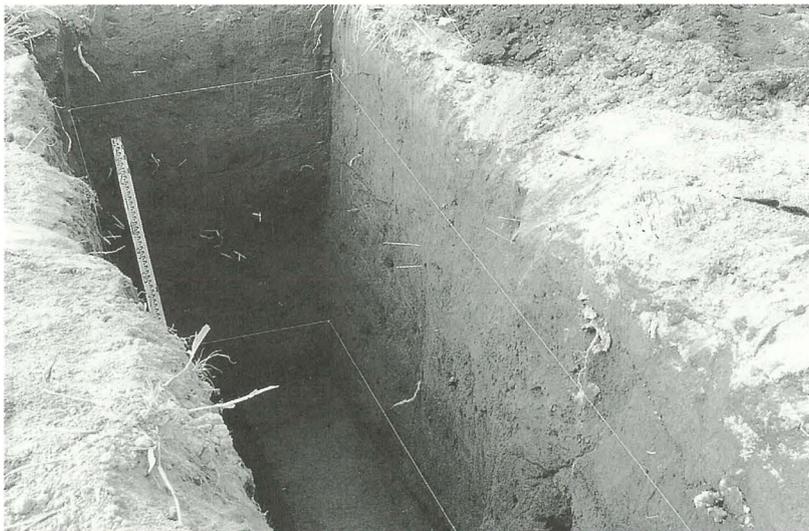


写真28 試掘トレンチ地層

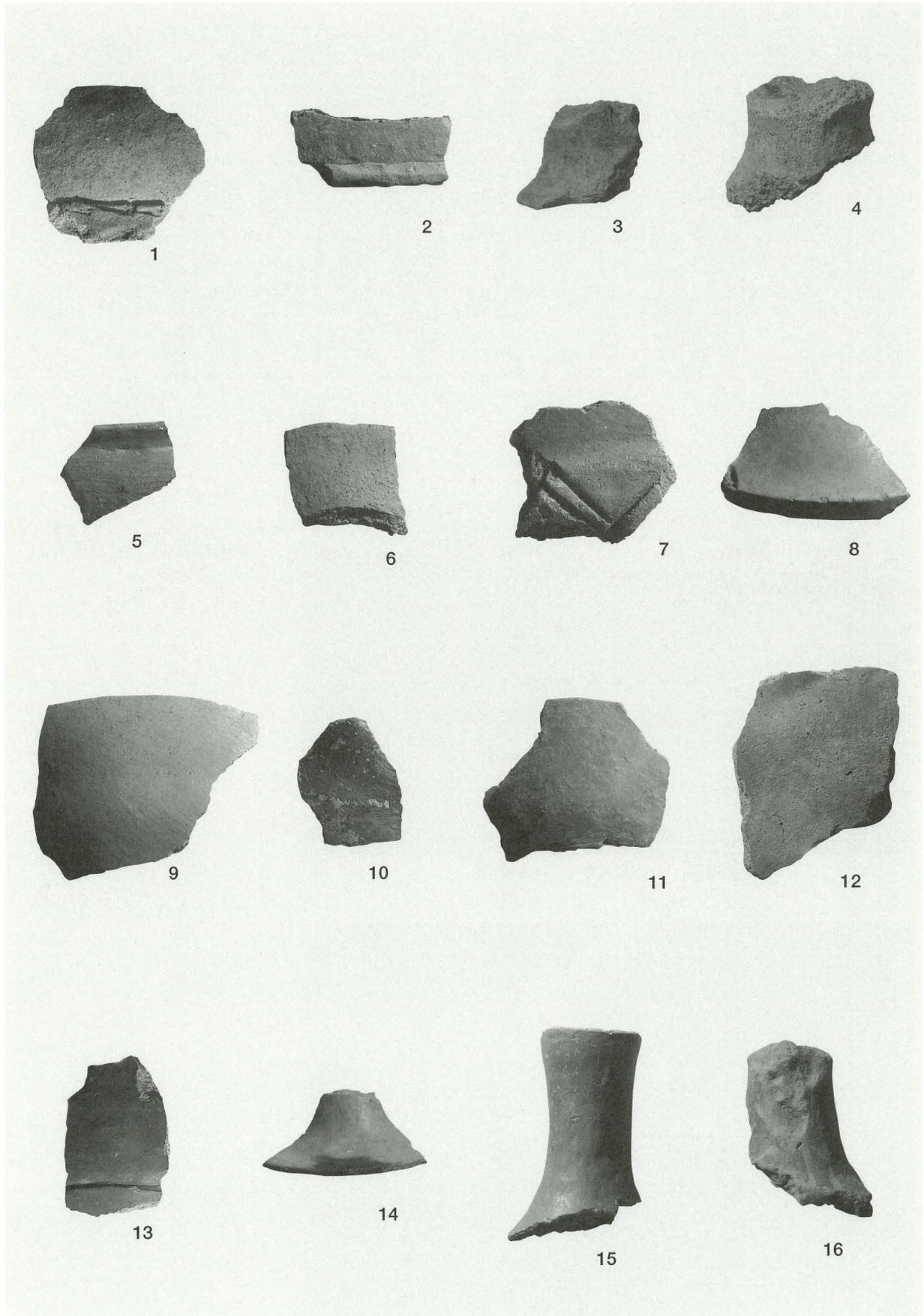


写真29 試掘トレンチ出土遺物①

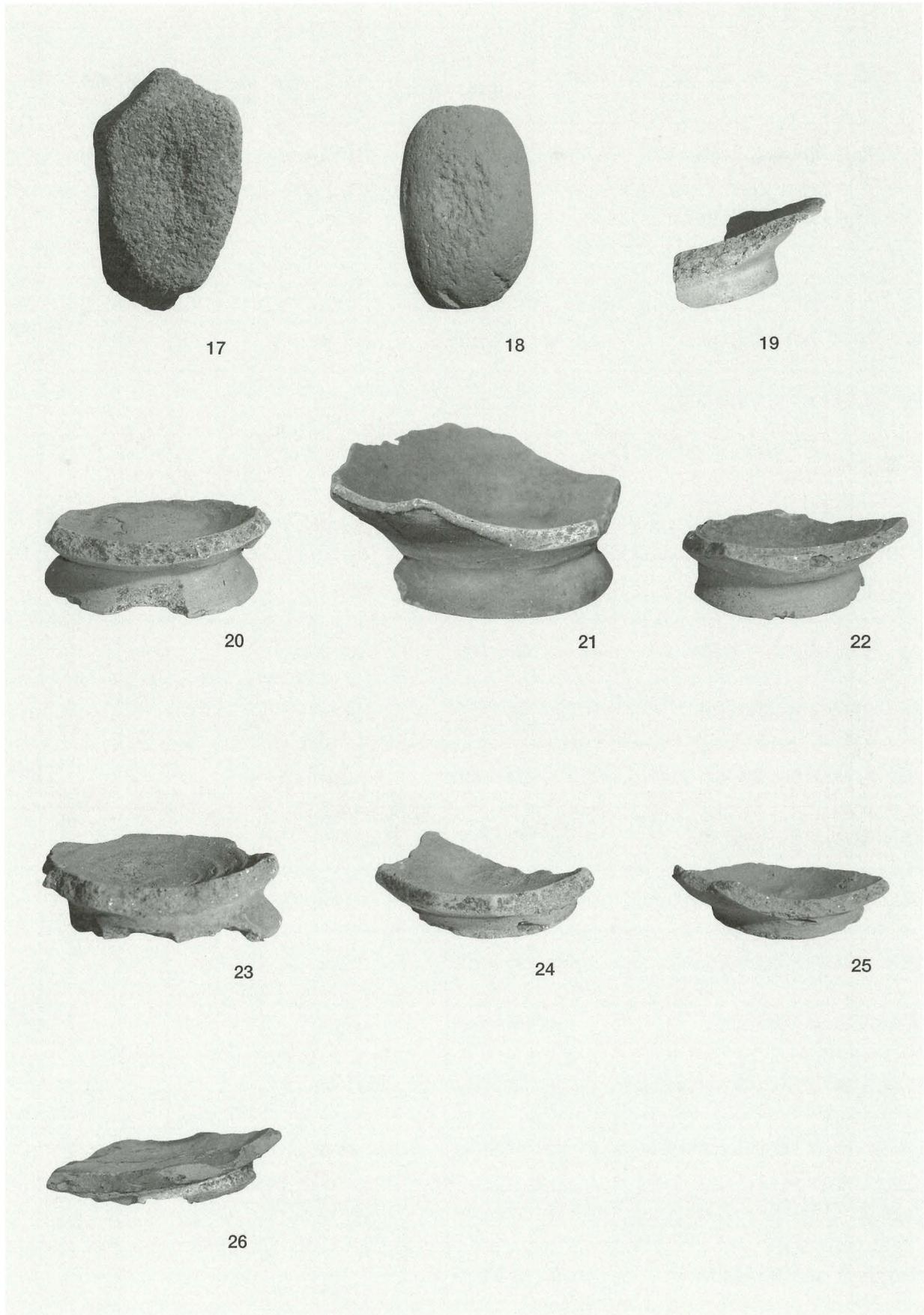


写真30 試掘トレンチ出土遺物②

表7 平成16年度試掘・工事立会等一覧1

遺跡名	所在地	受付日	事業			措置					備考	
			種別	公共	面積 (㎡)	工事 立会	試掘 調査	確認 調査	発掘 調査	慎重 工事		
南丹波遺跡	湯の浜3丁目2983-1	4・8	専用住宅		231.41						○	
南丹波遺跡	湯の浜4丁目3061-3	4・15	個人住宅		157.38						○	
宮之前遺跡	西方赤碓5066-3	4・19	個人住宅		91.91		○					今回報告
大園原遺跡	西方石行前330-5	4・23	個人住宅		254.36						○	浄化槽工事 立会
小田遺跡	十二町字田原ノ後	4・23	個人住宅		256						○	
下吹越遺跡	西方3963-1, 3964- 2, 8, 9, 3965-1, 3	5・14	工場		1953.04	○						
大園原遺跡	西方石行前330-3, 330-7	5・19	個人住宅		323.83						○	浄化槽工事 立会
小田遺跡	十二町字松元2400	5・26	個人住宅		220.84						○	
向吉遺跡	湯の浜4丁目3281-11	6・21	個人住宅		337.3	○						
矢石遺跡	十町田淵2335-2	6・22	個人住宅		423.14	○						
久保遺跡	新西方字富永470-5	6・23	個人住宅		500	○						浄化槽工事 立会
片野田遺跡	十二町字橋牟礼	6・24	個人住宅		335.53						○	
大園原遺跡	西方石行前330-3, 330-6	7・14	個人住宅		320.39	○						
大園原遺跡	西方鮎迫284-1	7・20	個人住宅		579	○						
大園原遺跡	西方鮎迫302-1	7・22	個人住宅		496.54	○						浄化槽工事 立会
南丹波遺跡	十二町字南丹波2983-2, 3	7・22	個人住宅		433.44						○	
向吉遺跡	十二町字山王平3477-3	7・22	個人住宅		258	○						
南丹波遺跡	湯の浜3丁目2983-6	7・28	個人住宅		238.13	○						
上吹越遺跡	西方石ノ尾2981-3	7・28	個人住宅		517		○					
小田遺跡	十二町字田原ノ後2356-イ	8・2	個人住宅		147.64						○	

表 8 平成16年度試掘・工事立会等一覧 2

遺跡名	所在地	受付日	事業			措置					備考	
			種別	公共	面積 (㎡)	工事 立会	試掘 調査	確認 調査	発掘 調査	慎重 工事		
矢石遺跡	十町字宇界2460-1, 2460-7	8・6	個人住宅		241.71	○						
片野田遺跡	十二町2274-2, 2274-1	8・9	個人住宅		240.05						○	
道下遺跡	西方460-1	8・11	個人住宅		330.78	○						浄化槽工事立会
矢石遺跡	十町字宇界2461-6	8・16	個人住宅		259.09	○						
矢石遺跡	十町字秋元2515-2	8・24	個人住宅		321.47	○						
南丹波遺跡	湯の浜3丁目2983-6	9・10	個人住宅		238.13						○	
中島ノ下遺跡	東方中島ノ下1619-2	9・27	個人住宅		330	○						浄化槽工事立会
中島ノ下遺跡	東方字有馬1594-8	10・1	個人住宅		289.44	○						
弓場遺跡	西方字上園ノ上4964-16	10・4	個人住宅		206.3	○						
摺ヶ浜遺跡	十二町字尻垂ノ下3626-2・3631-1	10・7	個人住宅		525						○	
山王遺跡	十二町字木ノ下3417・3409-1	10・13	個人住宅		223.34						○	
中島ノ下遺跡	東方字有馬1594-7	11・4	個人住宅		291.78							
敷領遺跡	十町2268-2	11・15	個人住宅		925					○		浄化槽部分
南迫田遺跡	十町字柴山480-4・481-5	11・24	個人住宅		289.94	○						浄化槽工事立会
南丹波遺跡	湯の浜3丁目2927-3・2929-1	11・29	個人住宅		291.46						○	
南丹波遺跡	十二町字南丹波 (一)2983-2・2983-3	11・29	個人住宅		283.04						○	

※平成16年11月末日現在まで

## 報 告 書 抄 録

ふりがな	みなみすりがはまいせき・やいしいせき・みやのまえいせき							
書 名	南摺ヶ浜遺跡・矢石遺跡・宮之前遺跡							
副 書 名	平成16年度市内遺跡確認調査報告書							
巻 次								
シリーズ名	指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号	第37集							
編 著 者 名	渡部 徹也 中摩 浩太郎 鎌田 洋昭							
編 集 機 関	鹿児島県指宿市教育委員会（指宿市考古博物館 時遊館COCCOはしむれ）							
所 在 地	〒891-0403 鹿児島県指宿市十二町2290 TEL：0993-23-5100							
発行年月日	平成17年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号		北緯	東経	調査期間 (整理を含む)	調査面積	調査原因
みなみすりがはまいせき 南摺ヶ浜遺跡	いぶすきしゆ はま 指宿市湯の浜	46210	2-58			2004.7.1～ 2005.3.31	87.5㎡	市内遺跡確認調査（国庫・県費補助事業）
やいしいせき 矢石遺跡	いぶすきしじょうぢやいし 指宿市十町字矢石	46210	2-15				6㎡	
みやのまえいせき 宮之前遺跡	いぶすきしにしかたぐくはら 指宿市西方字九玉原	46210	2-21				4㎡	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
南摺ヶ浜遺跡	包含地	縄文時代晩期	ピット	入佐式土器、石器等				
矢石遺跡	包含地	—	—	—		今回の調査地点からは遺構・遺物は確認されなかった		
宮之前遺跡	包含地	古墳時代 奈良～平安時代		成川式土器 土師器、須恵器				

# 平成16年度市内遺跡確認調査報告書

南摺ヶ浜遺跡・矢石遺跡・宮之前遺跡

平成17年 3月

指宿市教育委員会  
鹿児島県指宿市十二町2290  
TEL 0993-23-5100

印刷所

株式会社 朝日印刷  
鹿児島市上荒田町854-1  
TEL 099-251-2191



